

野津田 高等学校 令和 6 年度（2 学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教 科： 国語 科 目： 古典探究 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 3 組、5 組

使用教科書： 「高等学校 標準古典探究」第一学習社版

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】論理的思考力や深い共感力、豊かな想像力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって古典に親しみ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	古本説話集 【知識及び技能】 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 主に助動詞に関して、文語のきまりへの理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 平安朝の著名な人物にまつわる説話を読み、平中の色好みに端を発する滑稽話のおもしろさを味わう。 ・ 説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 積極的に説話を読み、滑稽味のある内容について理解を深めようとしている。	・ 授業での取り組み ・ プリント ・ 発問評価 ・ ノート ・ テスト ・ 一人一台端末の活用	【知識及び技能】 ・ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 文章の種類を踏まえて、展開を的確に捉えている。 ・ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 積極的に説話を読み、滑稽味のある内容について理解を深めようとしている。 ・ 完了の助動詞の意味を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明しようとしていたりして	○	○	○	
	十訓抄 【知識及び技能】 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 主に助動詞に関して、文語のきまりへの理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 平安朝の著名な人物にまつわる説話を読み、制約のある中でふさわしい返歌をした成範の機転を味わう。 ・ 説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、内容を的確に捉える。 ・ 編者の意図を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 積極的に説話を読み、成範の機転とはどのようなことであったか理解を深めようとしている。 ・ 助動詞「る」「らる」の意味を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。	・ 授業での取り組み ・ プリント ・ 発問評価 ・ ノート ・ テスト ・ 一人一台端末の活用	【知識及び技能】 ・ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 文章の種類を踏まえて、展開を的確に捉えている。 ・ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・ 書き手の意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の展開について評価している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 積極的に説話を読み、成範の機転とはどのようなことであったか理解を深めようとしている。 ・ 助動詞「る」「らる」の意味を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。	○	○	○	
	定期考查			○	○		1
	古今著聞集 【知識及び技能】 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 古典の作品や文章に表れる表現の特色、主として和歌の修辞について理解を深める。 ・ 文語のきまりについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 文章の種類を踏まえて、展開を的確に捉え	・ 授業での取り組み ・ プリント ・ 発問評価 ・ ノート ・ テスト ・ 一人一台端末の活用	【知識及び技能】 ・ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 古典の作品に表れている、修辞の特色について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 文章の種類を踏まえて、展開を的確に捉え				

・著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。 ・説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、展開や内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に説話を読み、和歌を含んだ説話の特質について理解を深めようとしている。 ・和歌の修辞について理解し、学習の見通しをもって調べたり発表しようとしていたりしている。 小式部内侍と和泉式部 【知識及び技能】 ・読書の意義と効用について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・『古今著聞集』の「小式部内侍が大江山の歌の事」に関連させて、著名な歌人である母和泉式部と小式部内侍との親子関係を調査する。 ・古典の作品や文章を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 ・学習の見通しをもって、小式部内侍と和泉式部に関する資料を、図書館の資料などを用いて、進んで調べようとしている。 ・集めた作品の内容を解釈し、小式	・授業での取り組み ・プリント ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人一台端末の活用	ている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・積極的に説話を読み、和歌を含んだ説話の特質について理解を深めようとしている。 ・和歌の修辞について理解し、学習の見通しをもって調べたり発表しようとしていたりしている。 【知識及び技能】 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・関心をもった事柄に関連する古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・学習の見通しをもって、小式部内侍と和泉式部に関する資料を、図書館の資料などを用いて、進んで調べようとしている。 ・集めた作品の内容を解釈し、小式部内侍と和泉式部の親子関係について考えたことを積極的に説明しようとしている。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	
---	--	--	----------------------------	----------------------------	----------------------------	--

	部内侍と和泉式部の親子関係について考えたことを積極的に説明しようとしている。					
	定期考査		○	○		1
2 学 期	徒然草 【知識及び技能】 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 ・文語のきまりについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・作者の鋭い観察眼を通して綴られた、世の諸事象に関する随筆を読んで、ものの見方・考え方を深める。 ・随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・随筆に表れた作者の考えを積極的に読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・作品に表れた我が国の中世的なものの見方、考え方に対して、学習の見通しをもって理解を深めようとしている。	・授業での取り組み ・プリント ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人一台端末の活用	【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・随筆に表れた作者の考えを積極的に読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・作品に表れた我が国の中世的なものの見方、考え方に対して、学習の見通しをもって理解を深めようとしている。	○	○	
	方丈記 【知識及び技能】 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・古典の作品や文章に表れる表現の特色について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・鎌倉初期という時代の転換期に作者が抱いた、人の世に対する思いを通して、ものの見方や考え方を深める。 ・和漢混雑文で書かれた随筆という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れた無常観を粘り強く読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・文体の歴史的背景をふまえて『方丈記』を読み、学習課題に沿って、表現の特色を評価しようとしている。	・授業での取り組み ・プリント ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人一台端末の活用	【知識及び技能】 ・古典の作品に表れている、言葉の響きやリズムなどの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・必要に応じて書き手の意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・作品に表れた無常観を粘り強く読み取り、自分のものの見方、考え方を深めようとしている。 ・文体の歴史的背景をふまえて『方丈記』を読み、学習課題に沿って、表現の特色を評価しようとしている。	○	○	○
	定期考査		○	○		1
	伊勢物語 【知識及び技能】 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・歌物語の特徴について理解を深める。 ・文語のきまりについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・物語の中で和歌が果たしている役割を押さえ、場面と登場人物の心情とを読み味わう。 ・歌物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・歌物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・学習の見通しを持って歌物語を読み、文章の中で和歌が重要な役割を果たす歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。	・授業での取り組み ・プリント ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人一台端末の活用	【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・歌物語を読み、文語のきまりや古典特有の表現に注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・学習の見通しを持って歌物語を読み、文章の中で和歌が重要な役割を果たす歌物語の特徴について、理解を深めようとしている。	○	○	○

	定期考査			○	○	1
3 学 期	【知識及び技能】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・故事成語の意味を進んで調査するとともに、その由来となった話を読んで、わかった内容を説明しようとしている。	・授業での取り組み ・プリント ・発問評価 ・ノート ・テスト ・一人一台端末の活用	【知識及び技能】 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・訓読のきまりについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 ・故事・寓話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・故事成語の意味を進んで調査するとともに、その由来となった話を読んで、わかった内容を説明しようとしている。	○	○	○
	定期考査			○	○	1

野津田 高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 地理歴史 科目 歴史総合

教 科： 地理歴史 科 目： 歴史総合 単位数： 3 単位
対象学年組：第 2 学年 1 組～ 3 組 、 5 組
使用教科書：新選 歴史総合(東京書籍)
教科 地理歴史 の目標：

- 【知識及び技能】近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
歴史の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる知識を増やし、歴史の理論について理解するとともに、諸資料から、歴史理解に必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	日本や世界の歴史的課題の理解のために、選択・判断の手がかりとなる考え方や歴史的な基本知識を活用して、事実をもとに多面的・多角的に考察したり、構想したことを議論している。	歴史に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して日本国民としての自覚、我が国の歴史や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて歴史的な事象を通して深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 歴史の扉 1 節 歴史と私たち ○諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。 2 節 歴史の特質と資料 ○日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、図像などの資料を活用し、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 第2章 近代化と私たち 1 節 近代化への問い ○交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。	・指導事項 第1章 歴史の扉 1 節 歴史と私たち 2 節 歴史の特質と資料 第2章 近代化と私たち 1 節 近代化への問い	【知識・技能】 ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について、諸資料から、情報を適切に読み取ったり、まとめたりしている。 【思考・判断・表現】 ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現する。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 【学びに向かう力、人間性】 ・科目全体の学習の見通しを立て、課題を追究しようとしている。 ・近代化に伴う生活や社会の変容について、学習の見通しを立て、課題を追究しようとしている。	○	○	○	15
	(定期考査)			○	○		1
	第2章 近代化と私たち 2 節 結びつく世界と日本の開国 ①18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ②産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、工業化と世界市場の形成を理解する。	・指導事項 第2章 近代化と私たち 2 節 結びつく世界と日本の開国 1 18世紀の東アジア 2 結び付くアジア諸地域 3 18世紀のヨーロッパとアジア 4 産業革命のはじまり 5 世界市場の形成 6 東アジア国際関係の変化と日本の開国 7 世界経済の変化と日本の産業革命	【知識・技能】 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。 ・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、工業化と世界市場の形成を理解している。 【思考・判断・表現】 ・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸	○	○	○	19

		国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。			
(定期考査)		【学びに向かう力、人間性】 ・近代化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、中学校までの学習も振り返りながら課題を追究しようとしている。	○	○	1

2 学 期	第2章 近代化と私たち 3節 国民国家と明治維新 ①国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲制と国民国家の形成を理解する。 ②帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などに着目して、多角的に考察し、表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 4節 近代化と現代的な諸課題 ○自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。 (定期考査)	第2章 近代化と私たち 3節 国民国家と明治維新 1 市民革命と近代社会 2 自由主義とナショナリズム 3 アジアの諸国家とその変容 4 明治維新と東アジアの国際関係 5 立憲制の広まり 6 帝国主義と植民地 7 日清戦争と華夷秩序の解体 8 帝国主義諸国の競合と国際関係 9 植民地支配と植民地の近代 10 20世紀はじめの世界 4節 近代化と現代的な諸課題	【知識・技能】 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 【思考・判断・表現】 ・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性】 ・近代化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。	○	○	○	20
	(定期考査)			○	○		1
	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い ○国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。 2節 第一次世界大戦と大衆社会 ①第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景や影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ②第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 (定期考査)	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会 1 大衆社会の時代 2 第一次世界大戦の展開 3 国際協調体制の形成 4 ソヴィエト連邦の成立と社会主義 5 アメリカ合衆国の台頭と大量消費社会 6 アジアの経済成長と移動する人々 7 反植民地主義の高揚と国際秩序の変容 8 民主主義の拡大と社会変革の動き 9 マスメディアの発達と日常生活	【知識・技能】 ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、諸資料から、情報を適切に読み取ったり、まとめたりしている。 ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 【思考・判断・表現】 ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景や影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、学習の見通しを立て、課題を追究しようとしている。 ・国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。	○	○	○	20
	(定期考査)			○	○		1

3 学 期	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 3節 経済危機と第二次世界大戦 ①経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際協調体制の動揺を理解する。 ②第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 第4章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い ○冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。 2節 冷戦と世界経済 ①地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際政治の変容を理解する。 (定期考査)	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 3節 経済危機と第二次世界大戦 1 世界恐慌 2 アジア・アフリカと大衆社会 3 国際協調体制の崩壊 4 日中戦争と深刻化する世界の危機 5 第二次世界大戦の勃発 6 第二次世界大戦における連合国と戦後構想 7 アジア太平洋戦争と日本の敗戦 8 連合国の占領政策と冷戦 9 再編されるアジアと冷戦 第4章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済 1 冷戦の拡大と第三勢力 2 キューバ危機と核兵器の管理 3 脱植民地化の進展と地域紛争 4 計画経済と開発 5 冷戦下の日本とアジア	【知識・技能】 ・世界恐慌、ファシズムの伸長、日本の対外政策などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、国際協調体制の動揺を理解している。 ・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめ、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 【思考・判断・表現】 ・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・国際秩序の变化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。	○	○	○	26
	○	○		1			
	合計						
105							

野津田 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 地理総合

教 科： 地理歴史 科 目： 地理総合 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 4 組

使用教科書：「地理総合 世界に学び地域へつなぐ」、「新詳高等地図」

教科 地理歴史

の目標：

【知 識 及 び 技 能】

現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 地理総合

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	・地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 ・経度の違いから時差の概念を捉え、日常生活における時差計算の技能を身に付け、球面として成り立つ世界認識をもつ。 ・図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。 ・グローバルな立場から日本の領域を理解するために、国境や国家の領域の世界的な基準を捉えながら、日本が抱える周辺諸国間との領有権の問題や海洋資源の利用について考える。 ・グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくり方を理解する。 ・交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身につける。 ・グローバルな視点から持続可能な社会の形成のために、資料を根拠として示しながら課題解決のための方策を多面的・多角的に考える。 ・身近な地図を集め、それらの地図の特徴を捉え、地図情報の有用性を理解する。 ・地図情報を活用する方法として、紙地図と電子地図としてのGISがあることを理解し、地理院地図や地形図を通して認識する。 ・GISが日常生活にも利用されている実例を捉え、大量の地理情報を処理できるGISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解する。 ・GISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法と技能を身につける。 ・世界の大地形の広がりがプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連し、変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し、地震あるいは場所によって火山を伴うことを理解する。 ・河川、海岸などの外的営力による地形の形成とその広がり、およびそれらの地形と対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について、写真や地形図などの資料を通して考える。	第1章 地図とGISの活用						
		第1節 球面上の世界	地球上での位置、太陽高度の変化、緯度経度のしくみ、時差の計算について理解できたか。	○			3	
			球体としての地球の観点から、図を活用して地球上の位置や時差のしくみを捉え、説明できたか。		○			
			球体としての地球の把握に向け意欲的に探究し、作業や考察に取り組むことができたか。			○		
		第2節 日本の位置と領域	世界地図の主な図法と利用について理解し、国家の領域に関する知識を身に付け、日本の領土問題について歴史的背景と空間的広がりを理解できたか。	○			4	
			世界地図を図法の違いにより使い分け、日本の位置と領域について世界的視野から捉え、日本の領域をめぐる問題を考察できたか。		○			
			様々な世界地図の違いに関心を持ち、資料などから様々な世界地図の存在に気づくこと、日本の領域に関する問題について、意欲的に探究し、海洋資源の問題とともに考えることができたか。			○		
		第3節 国内や国家間の結びつき	人・モノ・情報の結びつきに関する知識や、統計資料から分布や変化などの特徴を見出す技能を身につけたか。主題に対して適切な統計地図を作成できたか。	○			6	
			複数の統計地図を結びつけ、世界の結びつきや偏りについて考察したことを説明できたか。地図で示す主題によって統計地図の表現方法が異なることを考察できたか。			○		
			統計資料を意欲的に読み取り、それを表現できたか。統計地図の作成に意欲的に取り組むことができたか。					○
		第4節 暮らしのなかの地図とGIS	GISの特徴や利用方法、そのしくみについて理解し、GISで作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法を身につけたか。地理院地図などインターネット上のGISの機能を利用し、地理空間情報を活用できたか。	○			4	
			身近な地図について、目的により表現方法に違いがあることが判断できたか。紙の地形図と電子地図の用途や活用について、地図の有用性の観点からそれぞれの長所を考察できたか。			○		
			身の回りの地図に興味を持ち、意欲的に地図の知識を活用できたか。GISの作業に意欲的に取り組み、GISで作成した地図から地域の特徴を分析しようとしたか。					○
			第2章 地理的環境の特色					
		第1節 地形と生活文化	地形についての知識を身に付け、世界的視野から地形の分布の特徴、および地形図から等高線や地図記号などを判読し、地形の特徴や土地利用を捉えることができたか。	○			4	
		世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ、世界の地形配置と比較し、また生活している地域の地形の特徴について、写真、地形図などから捉え、人間生活との関連を考察できたか。			○			
	地形図や分布図、写真、模式図の読み取りに意欲的に取り組んだか。地形図を用いた作業に意欲的に取り組み、地形と人間生活とのつながりを捉えようとしたか。				○			

	- 世界的な視野から大気や海流が循環するしくみを捉え、地球上ではそれらの影響を反映した気候の地域性が生まれていることを理解する。 - 降水量と気温の特徴をふまえながら世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、植生や農業などの人々の生活文化に多様な影響を与えていることを理解する。 - 熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の各気候は人々の生活文化とどのような関わりをもつのか、どのような生活の工夫があるのか、写真や雨温図などの資料から考える。	第2節 気候と生活文化	大気の大循環と海洋に起因した大気のしくみ、各気候の分布の特徴を理解できたか。雨温図や写真から情報を抽出し、各気候と植生の対応や、それらが関連した人々の生活の特徴を読み取り、整理できたか。 世界規模の大気のしくみが人間生活に影響していること、気候の分布の規則性を気候区分図をもとに考察できたか。写真などの資料をもとに、各気候により景観が異なることを捉え、農業や生活への影響を、資料をもとに考察できたか。 雨温図や写真の判読を通じて、世界各地の気候や生活文化の対応について意欲的に探究できたか。雨温図やハイサーグラフなどの気候資料の作成に意欲的に取り組んだか。	○				5
	- 世界の生活文化が各地域の環境に基づいて発達する産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける第1次産業、第2次産業、第3次産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。 - 産業の発達と生活文化がどのようにかわるのか、産業はどのように変化しているのか、主題図などの資料を通じて理解を深める。	第3節 産業と生活文化	世界の視野からみた産業の特徴と分布を概観できたか。主題図や写真、グラフ、統計資料から世界の産業の分布と発達を捉えることができたか。 自然環境が産業の形成に関わっていることを資料をもとに考察できたか。世界の産業の変化をグローバル化の観点で考察できたか。 身近な商品が世界規模の産業構造の中に位置づけられることを意欲的に探究できたか。産業が発達し続けていることを、時事的話題とともに意欲的に捉えようとしたか。	○		○		
	- 世界でみられる生活文化の多様性について、宗教、言語の分布や人々との関わりを主題図や写真などの資料を通じて理解するとともに分布を示す要因について理解する。 - 世界の少数民族、移民、難民の問題を捉えながら、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。	第4節 宗教・言語と生活文化	世界の多様性を理解し、異文化を尊重する姿勢が重要であることを理解したか。主題図や写真、グラフ、統計資料から世界の宗教の分布と特徴を捉えることができたか。 生活と宗教の関わりについて地域性や歴史的背景をもとに捉え、また世界的な難民と移民の問題を地図などの資料から捉え、考察できたか。 世界の宗教の特徴をまとめ、身近な地域の外国人の受け入れなどと関連させて追究できたか。難民と移民の問題構造を調べ、難民問題の解決策を意欲的に探究できたか。	○		○	○	
								4
第3章 世界各地の生活文化								
	- 社会経済システムの変化に焦点を当て、東アジアの中国と韓国を例に両国の特徴を主題図やグラフなどの資料を通じて捉える。 - 特に世界や日本、中国、韓国の3か国とのつながりから両国の経済発展の発達過程について理解し、経済発展の結果として起きている様々な問題について生活文化と対応させながら考える。	第1節 経済発展と生活文化の変化～東アジア	図版や写真から社会経済システムの特徴と変化を捉え、課題を整理できたか。中国や韓国を例に経済発展が生活文化に与えた影響について理解できたか。 中国や韓国の工業の発達に伴う人口や環境などへの影響について、主題図などの資料をもとに考察できたか。日中韓の連携を学習内容から見出し、新しい関係づくりを捉えることができたか。 身の回りの中国や韓国の商品を意欲的に調べ、中国や韓国の経済成長と課題について、日本を含めた日中韓の貿易や観光などの経済的な関係を意欲的に探究できたか。	○		○	○	4
	- 多民族社会と地域統合に焦点を当て、様々な言語や宗教をもつ東南アジア諸国の人々の生活文化にはどのような特色がみられるのか、主題図や写真などの資料をもとに理解する。 - 特に仏教、イスラム教、キリスト教の各文化圏における生活文化の多様性や多言語・多民族社会の様子、また豊かな資源を背景に経済発展を遂げるASEAN諸国の現状と課題について考える。	第2節 宗教の多様性と生活文化～ASEAN諸国	地形についての知識を身につけ、世界的視野から地形の分布の特徴、および地形図から等高線や地図記号などを判読し、地形の特徴や土地利用を捉えることができたか。 世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ、世界の地形配置と比較し、また生活している地域の地形の特徴について、写真、地形図などから捉え、人間生活との関連を考察できたか。 地形図や分布図、写真、模式図の読み取りに意欲的に取り組んだか。地形図を用いた作業に意欲的に取り組み、地形と人間生活とのつながりを捉えようとしたか。	○		○	○	
	- 水資源に焦点を当て、地形、気候などの自然環境を捉えながら、水資源と宗教、農業、文化や産業の成立の関わりを主題図やグラフなどの資料を通じて理解する。 - 経済成長を背景とした水資源の課題を周辺国とのつながりから考える。	第3節 水の恵みと生活文化～南アジア	図版や写真から自然環境を捉え、生活文化との対応や経済の変化を整理できたか。水の恵みを受けた農業と生活文化の関わりについて理解できたか。 インドを例に自然環境と農業のつながりを資料をもとに考察できたか。経済発展による生活文化の変化と、それに伴う水問題の課題について考察できたか。 生活文化と産業の進展の関連や市場経済の進展による自然環境への影響など、地域の課題を多角的、多面的に探究できたか。	○		○	○	2
	- イスラームに焦点を当て、気候条件、宗派の違い、聖地メッカからの距離、エネルギー資源の有無などを基盤とした経済水準の違いについて理解する。 - ムスリムの生活文化に差異をもたらしている要因を主題図や写真などの資料をもとに考える。 - 社会問題の例として、パレスチナやエルサレムの問題、少数民族の問題を民族・言語の分布から理解する。	第4節 イスラーム社会の多様性と生活文化～イスラーム圏	図版や写真からイスラームの特徴を捉え、自然環境と生活文化との対応、またイスラーム圏の課題を日本との関連をふまえて整理できたか。豊富なエネルギー資源による恵みと生活文化の変化を理解できたか。 写真に見られる共通性と異質性をまとめたうえで、写真と地図を組み合わせて考察し、イスラーム圏の生活文化を説明できたか。地域紛争の背景としての民族や宗教・宗派の違いについて考察できたか。 イスラーム圏の生活文化を意欲的に調べ、圏内の共通点や相違点を探究できたか。課題がどのように日本と関わっているかを考え、日本や自身が行き止むべきことは何かを追究できたか。	○		○	○	
	- 自然環境と生活文化の対応とその多様性に焦点を当て、モノカルチャー経済の構造は残っているが、多様性に富む自然環境や食文化をもち、資源開発などを背景とした近年の経済成長について主題図や写真などの資料を通じて理解する。 - 経済成長や開発などを背景としたアフリカの課題を自然環境と生活文化の関わりから考える。	第5節 多様な気候と生活文化～アフリカ	図版や写真から多様な自然環境の特徴を捉え、自然環境と生活文化との対応と地域の変化を整理できたか。生活文化を地形や気候と関連づけ、農業と食文化の関連について理解できたか。 地形、気候、歴史的背景とともに生活文化の多様性を考察できたか。経済成長による生活文化の変化と気候変動などをふまえて、アフリカの課題について捉え、課題やその対策を説明できたか。 食文化や生活の工夫を調べ、多様な自然環境の広がりとの対応を見出し、意欲的に探究できたか。アフリカの課題をまとめ、SDGsをふまえた課題解決策を考えたり調べたりできたか。	○		○	○	3

2 学 期	- 産業の発達と地域統合に焦点を当て、ヨーロッパを例に多様性と一体化をもつ産業の特徴やその歴史的背景を捉え、気候、言語・宗教の分布などを関連させながら主題図やグラフなどの資料をもとに理解する。 - 地域統合の長所とともにイギリスのEU離脱や加盟各国の移民排斥の動きの強まりなどの課題を整理する。 - 地域間格差が生じている現状を捉え、これからのヨーロッパのよりよい社会を目指して課題について考える。	第6節 経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国	図版や写真から産業の発達や地域統合を捉え、自然環境や言語、宗教と関連づけて整理できたか。産業の発達と地域統合が生活文化に与えた影響を理解できたか。言語や宗派の違いを乗り越えEUが統合する背景を理解できたか。 ヨーロッパの農業と気候との対応や工業地域の近年の変化について、主題図をもとに考察できたか。EUへの加盟国と離脱する国があることをふまえ、EU統合に伴う生活への影響を考察し、今後の課題について資料をもとに協議できたか。 農業、工業の特徴を捉えるとともに、気候や地域統合の広がりなど他の要素との関連に関心をもって意欲的に取り組むことができたか。言語・宗教の多様性と産業とを関連させながら地域統合とその課題について意欲的に探究できたか。	○		○		3
	- 寒冷な自然環境に焦点を当て、ロシアを例に主題図やグラフなどの資料をもとに気候に制約を受ける農業など、自然環境と人々の生活との対応を理解する。 - 豊富な鉱物資源を背景にしたヨーロッパ諸国や日本など東アジアとの結びつきや近年の開発による自然環境への影響を考える。	第7節 寒冷な気候と生活文化～ロシア	図版や写真から寒冷な自然環境の特徴を捉え、生活文化や産業の発展と関連づけて整理できたか。周辺国との関連から産業の発展を捉え、経済発展が自然環境へもたらす影響を理解できたか。 寒冷な気候と生活文化との関連を捉え、開発が自然環境に与えた影響と課題について考察できたか。日本周辺の自然環境とシベリアのつながりを捉え、自然環境の変化による影響を協議できたか。 寒冷地域の自然環境と生活文化の相互の関連を捉え、ロシアの特徴を意欲的に追究できたか。経済と環境の両面をふまえた開発と自然環境の保全を意欲的に捉えることができたか。	○		○		3
	- 社会経済システムのグローバル化に焦点を当て、主題図や写真などの資料を通じて、民族構成から多様な社会と歴史的背景を理解する。 - 企業的農業の発達とアメリカ合衆国の外食産業やICT産業などの多国籍企業が世界の経済や生活文化に影響を与えている現状を捉える。 - アメリカ合衆国の貿易の問題についてグローバルな視点で考える。	第8節 グローバル化による生活文化の変化～アメリカ・カナダ	図版や写真からアメリカの産業を捉えながら、世界の生活文化や経済への影響を整理できたか。経済発展の基盤となる社会の多様性を捉え、アメリカの農業とグローバルな食文化との関係や産業の変化について理解できたか。 グローバルな観点やからアメリカの社会経済システムを主題図などの資料から捉え、世界の経済や生活文化への影響を考察できたか。産業や世界の貿易体制の変化を考察し、それに伴う世界やアメリカの課題について説明できたか。 アメリカの社会経済システムを農業、工業などの観点から多面的、多角的に捉え、世界への影響を意欲的に探究できたか。アメリカの貿易体制の葛藤を学習内容から意欲的に考え、世界への影響をふまえながら追究できたか。	○		○		4
	- 開発に焦点を当て、ラテンアメリカで様々な人びとが生活している理由やプランテーションをはじめ農業や鉱業などの産業の多様性がみられる理由について、主題図やグラフなどの資料をもとに多様な自然環境や植民地時代の開発の影響、そして近年の社会経済システムの変化から捉える。 - 鉱工業が発展していく中で生じている貧富の差の現状を捉え、その解決に向けた取り組みを考える。	第9節 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ	図版や写真から開発の背景を捉え、開発と自然環境、生活文化、産業との関わりを整理できたか。資料から開発により生じているラテンアメリカの課題を読み取ることができたか。 図版と写真から、自然環境と生活文化の共通性と異質性を開発の歴史から考察できたか。資源を背景とした経済発展とそれに伴う経済格差の現状について、課題とともに協議できたか。 自然環境と生活文化の相互の関連を捉え、開発の背景について意欲的に探究できたか。都市問題や経済問題、環境問題などについて意欲的に調べ、その要因と解決について協議できたか。	○		○		3
	- 開発に焦点を当て、オーストラリアとニュージーランドの自然環境の違いを比較し、主題図や写真などの資料から植民の歴史とそこに展開する産業を捉え、両国の生活文化の違いを理解する。 - オーストラリアとニュージーランドの生活文化の歴史的背景や現状と将来について、周辺国とのつながりや多文化社会と関連づけて考える。	第10節 植民と移民による生活文化の形成～オセアニア	図版や写真から農業と鉱業の観点からみた開発の背景を比較しながら整理できたか。周辺国とのつながりや多文化社会への取り組みを理解できたか。 2つの国の開発の背景を比較し、共通点と相違点を考察できたか。開発とともに進んだ多民族化と多文化共生について資料をもとに考察できたか。 2つの国を比較して開発の背景を捉え、植民と移民による産業の進展を意欲的に探究できたか。2つの国の課題を整理し、貿易や移民の変化を追究できたか。	○		○		2
第3章 地球的課題と国際協力								
	- 持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えていくことが必要であること、自らとかわる問題であることをSDGsをふまえて認識する。 - 深刻な地球環境問題を生じている大気汚染、森林減少、砂漠化、気候変動について事例をあげて捉え、それぞれの影響と将来の予測から解決の取り組みについて考える。	第1節 地球環境問題	持続可能な社会を目指すSDGsの目標と趣旨を理解できたか。国際機関のウェブサイトや主題図、統計資料などから、環境問題の現状や原因を情報収集できたか。環境問題の現状を捉え、原因や影響を図解して整理できたか。 世界のどこで、どのような地球環境問題が生じているのかを資料をもとにまとめ、持続可能な社会の実現に向けた提案ができたか。SDGsの目標をふまえ、海や陸の豊かさを守るための国際的な取り組みや具体的な対策を提言できたか。 地球環境問題のしくみや原因の理解とともに、地球市民の一人として、それらの問題が人々の生活に与える影響について意欲的に探究し、どのような行動ができるかを追究できたか。	○		○		2

3 学 期	・地球規模で起こる資源の問題について主題図などの資料をもとに考え、偏在して分布することで保有国と非保有国との間に格差があることを認識する。 ・エネルギー資源の変化を捉えながら資源の大量消費によって枯渇の恐れがあることを認識し、これらの解決のための取り組みをSDGsと関連づけて考える。	第2節 資源・エネルギー問題	主題図から資源の分布が偏在していることを理解できたか。限りある資源の問題を解決するためのリサイクルや再生可能エネルギーのしくみを理解できたか。 主題図などをもとに鉱物資源とエネルギー資源の分布と今後の将来需要を予測し、SDGsの目標をふまえて今後必要な鉱物やエネルギーの利用について提案できたか。 日常利用されている鉱物資源やエネルギー資源を調べ、その輸入先やリサイクルなどの現状を意欲的に探究し、持続可能な利用について追究できたか。	○		○	2
	・人口が急増している世界の現状を捉えるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題点を整理する。 ・持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を集め、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。	第3節 人口・食料問題	世界人口の増加で生じる問題を世界的視野から理解し、人口増加地域と人口停滞地域における人口問題の違いを整理できたか。人口資料をもとにした図版を読み取り分析することができたか。世界の食料問題を主題図などから現状を認識し、その自然的、社会的な背景を理解できたか。 世界の人口問題の現状を資料を比較しながらまとめ、日本の人口問題についての提言を他国と比較しながら考察できたか。飢餓と飽食の世界的な分布を主題図やグラフなどの資料から考察し、その背景とSDGsの目標をふまえて、とくに栄養不足人口が多いサブサハラを例として対策を協議できたか。 世界や主要国の人口の推移を捉え、他国の事例を参考にして日本と比較しながら人口問題について意欲的に探究できたか。人口問題と食料問題をそれぞれ捉えながら、両者のつながりを図表などを用いて意欲的に整理し、国際社会の一員として取り組む国際協力を具体的に追究できたか。	○		○	2
	・世界では都市に人口が集まる現象がみられることを主題図やグラフから読み取り、人口が集まる都市内部の構造を景観をふまえて理解する。 ・途上国の大都市を中心に人口集中に伴う問題が生じていることを捉え、問題の要因を理解しながら、都市の問題の改善を目指した都市計画を取り上げ、SDGsと関連づけ都市問題の解決策を考える。	第4節 居住・都市問題	世界の視野で都市人口率の増加を捉え、都市内部の視野で景観や場所による役割の違いをふまえながら都市の構造を理解できたか。人口が集中する都市で生じる問題と都市計画が行われた事例から問題の対策例を整理できたか。 都市への人口集中を主題図やグラフから捉え、都市と農村の景観を比較しながら考察できたか。人口集中と都市問題の発生、途上国と先進国の都市問題を通じ、人口集中によって生じる諸問題を資料をもとに考察し、SDGsの目標とともに解決の方策や課題を提案できたか。 世界的な視野と地域的な視野で縮尺を変え、都市問題の事例をもとに多角的、多面的な視点で都市問題の構造を意欲的に探究できたか。途上国の都市問題について先進国での都市計画などを参考に、国際協力の立場で課題解決に結びつけることができたか。	○		○	2
	第4章 生活圏の諸課題						
	・日本列島の地形と気候の特徴を主題図、グラフ、写真などの資料をもとに、多様性や自然の恩恵があることを認識しながら、自然災害を与える要素があることを理解する。 ・日本各地では毎年のように様々な自然災害が起きていることを理解するため、風水害、火山、地震・津波、都市型の災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、気象情報、電子地図などを利用する技能とともに捉える。 ・自然災害はどのような自然環境と関係しているのか、それに対する備えはどうすれば良いのか考え、居住地域での防災・減災意識の向上につなげる。	第1節 日本の自然災害と防災	日本の自然環境の特徴と生活文化との関わり、日本列島における自然災害について具体的な事例を通じて、災害のしくみや特徴、地域性、防災への取り組み方や課題を理解できたか。地形図やハザードマップを活用し、防災と避難行動について考察する技能を身につけることができたか。 日本の自然環境と生活との関わりを主題図や写真から、また日本の自然環境の特徴を反映した自然災害が発生してきたことを資料から読み取り、それをふまえて自然災害時の対策を考察できたか。自らの生活圏の防災について、資料から適切に判断し、課題と避難行動を協議できたか。 自然環境の特徴と自然災害とのつながりを意欲的に探究し、過去の災害事例を調べることができたか。GISなどを活用し、自然災害への対策を意欲的に探究できたか。災害発生時の自助・共助・公助をふまえて、身近な地域で発生が予想される場面を想定して、意欲的に対策を検討できたか。	○		○	2
	・日本が抱える地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。 ・現地調査と統計資料によって得られた結果を主題図などにまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につける。 ・調査結果をもとに、地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。	第2節 生活圏の諸課題と地域調査	地域的な課題についての調査法、統計資料を収集して、それを主題図に表現する方法、調査結果を主題図などにまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につけることができたか。 調査で得られた結果を、主題図や表などに整理できたか。得られた資料を根拠にして、地域の特徴や課題を見つけ、まちづくりのプランを構想できたか。 身近な地域に様々な課題があることを見出し、意欲的に主題図やグラフなどを資料を作成できたか。主題図などの調査結果を根拠にして、意欲的に地域の課題解決に向けたまちづくりのプランを検討し、発表できたか。	○		○	2
							合計
							78

野津田 高等学校令和6年度（2学年用）教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科： 数学 科目： 数学Ⅱ 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 3 組

使用教科書： 数研出版 新高校の数学Ⅱ

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・極限、微分法及び積分法についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深くとらえて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質などに着目し、問題解決の過程や結果を振り返って統合的に考察する力を身に付けている。	・数学の良さを認識し、積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章：複素数と方程式 【知識及び技能】 多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようになる。 【思考・判断・表現】 数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようと、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする事。	・指導事項 第1章 複素数と方程式 式の計算 複素数と方程式 式と証明 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1 台端末の活用	【知識・技能】 3 次式の展開の公式を利用できる。 負の数の平方根を理解し、 i を用いて処理することができる。 【思考・判断・表現】 2 次式の展開の公式を利用して、3 次式の公式を導くことができる。 複素数の表記を理解し、複素数 $a + oi$ を実数 a と同一視できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 3 乗に関わる展開の公式を自ら導こうとする。 数の範囲を実数から複素数へ拡張することについて、有理数から実数に拡張したことと関連させ、考察しようとする。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
	第2章 図形と方程式 【知識及び技能】 様々な図形についてその特徴を理解し方程式に直すことができるようにする。 【思考・判断・表現】 図形の特徴から座標や式を用いてその図形を数学的に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 図形及びそれを表す方程式から、その有用性を認識するとともに事象の考察に活用できるようにする。	・指導事項 第2章 図形と方程式 点と直線 円 軌跡 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1 台端末の活用	【知識・技能】 数直線上において2 点間の距離や線分の内分点・外分点を求めることができる。 座標平面上においても2 点間の距離や線分の内分点・外分点を求めることができる。 【思考・判断・表現】 三角形の重心の性質を適切に利用できる。 円上のテント中心との距離が一定であることに着目し、円の方程式について考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数直線上の点に関する公式を利用して、平面上の場合を考察しようとする。 x 、 y の2 次方程式があらわす図形に興味・関心を持つ。	○	○	○	29
	定期考査			○	○		1

2 学 期	第3章 三角関数	・指導事項 第3章 三角関数 一般角 三角関数のグラフ ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。 公式を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 三角関数の性質を、単位円周上の点の座標によって考察することができる。 単位円周上の点の動きから、三角関数のグラフを考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 三角比の定義を一般化して、三角関数の定義を考察しようとする。 三角関数の性質を利用すれば、どんな角でも三角関数表を利用して値を求められることに興味を持ち、いろいろな値を調べようとする。	○	○	○	28
	定期考査			○	○		1
	第4章 指数関数・対数関数	・指導事項 第4章 指数関数・対数関数 指数関数 対数関数 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。 指数と対数とを相互に書き換えることができる。 【思考・判断・表現】 指数が、0や負の数、有理数の場合も指数法則が成り立つことを理解している。 指数法則を利用して、対数の性質を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 指数の範囲を0や負の数、有理数へと拡張する過程に関心を持ち、どのように定義すればよいかを調べようとする。	○	○	○	27
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第5章 微分法と積分法	・指導事項 第5章 微分法と積分法 微分法 積分法 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。 導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 関数の増減を接線の傾きから考察することができる。 微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 接線の傾きと微分係数との関係を図形的に考察しようとする。 平均の速さと瞬間の速さとの違いに興味を持ち、それらの違いや微分係数との関連について調べようとする。	○	○	○	25
	定期考査			○	○		1
							合計
							140

野津田 高等学校令和6年度（2学年用）教科 数学 科目 数学A

教科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 4 組～ 5 組

使用教科書： 数研出版 新高校の数学A

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確立についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に会食したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見出し、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動とのかわりに着目し、事象に数学の構造を見出し、数理的に考察する力を養う。	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 場合の数と確率 【知識及び技能】 集合の要素の個数を、数え上げること で求めることができるようになる。 【思考・判断・表現】 場合の数を求めるときの基本的な考 え方について理解を深めることがで きるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 場合の数を求める考え方を事象の考 察に活用できるようになる。	・指導事項 第1章 場合の数と確率 集合 集合と要素の個数 和の法則と積の法則 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1 台端末の活用	【知識・技能】 共通部分や和集合、全体集合、補集合などの 集合に関する用語を理解し、それらを求める ことができる。 【思考・判断・表現】 条件を満たすものを集合の要素として考え、 表すことができる。 ものを数え上げるのに集合を利用して考察す ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 集合の考えについて興味を持ち、いろいろな 集合を表そうとする。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	第1章 場合の数と確率 【知識及び技能】 簡単な場合の数を、順列や組合せの 考えを利用して求めることができる ようになる。 【思考・判断・表現】 基地の考え方を利用するなどして順 列や組合せについて考察することが できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な事柄にも順列や組み合わせの 考え方が用いられること興味を持ち それらの事象の考察に活用できるよ うになる。	・指導事項 第1章 場合の数と確率 順列 組合せ ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1 台端末の活用	【知識・技能】 順列や組合せの意味を理解し、公式を利用す ることができる。 さまざまな場合の数を順列や組合せの考えを 利用して求めることができる。 【思考・判断・表現】 順列の総数と組合せの総数の関係を理解し、 その総数を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 さまざまな場合の数を求めるのに、順列や組 合せの考え方が使えることに、興味・関心をも つ。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	第1章 場合の数と確率 【知識及び技能】 確率の意味と確率を求めるときの基 本的な法則についての理解を深め活 用できるようになる。 【思考・判断・表現】 物事の起こりやすさを同様に確から しいという概念をもとに数量的に考 察できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 確率の意味や法則を事象の考察に活 用できるようにする。	・指導事項 第1章 場合の数と確率 事象と確率 独立な試行と確率 期待値 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1 台端末の活用	【知識・技能】 確率の定義を理解し、簡単な確率を求めるこ とができる。 確率の性質を理解している。 【思考・判断・表現】 試行の結果を事象としてとらえ、事象を集合 と結び付けて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 理論上のサイコロと実生活におけるサイコロ の厳密性の違いを知ること、数学が理論的 な思考によって成り立っていることに興味・ 関心を持つ。	○	○	○	14

2 学 期	定期考査 第2章 図形の性質	・指導事項 第2章 図形の性質 角の二等分線 三角形の外心内心重心 円周角の定理	【知識・技能】 角の二等分線と線分の長さの比の定理を理解し、それを用いてへんや線分の長さを求めることができる。	○	○		1
	【知識及び技能】 図形の基本性質を理解し、それらを用いて角の大きさや辺の長さを求めることができるようになる。	・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【思考・判断・表現】 三角形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる。 円周角の定理の逆を理解し、等しい角に着目して考察することができる。	○	○	○	13
	【思考・判断・表現】 角の大きさや辺の長さを求めるのに、図形のどの性質を使えばよいかが判断できるようになる。		【主体的に学習に取り組む態度】 図形の基本的な性質についてすでに学んだ事				

	【学びに向かう力、人間性等】 平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。		象を思い出し、それらを活用できる場面を見出そうとしている。				
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第2章 図形の性質 【知識及び技能】 円に関する基本性質を理解し、それらを用いて角の大きさや線分の長さを求めることができるようになる。 【思考・判断・表現】 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質を見出し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 図形についてのさまざまな性質についてそれらを観察したり考察したりすることで、空間認識力の育成を図る。	・指導事項 第2章 図形の性質 円に内接する四角形 方べきの定理 空間図形 ・教材 教科書、問題集 プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 円に内接する四角形の性質や方べきの定理などを理解し、角の大きさや線分の長さを求めることができる。 【思考・判断・表現】 円と直線を動的にとらえ、それらの位置関係を考察することができる。 多面体の頂点、辺、面の数に関して成り立つ性質を具体的な例によって確認し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 四角形が円に内接する条件に興味を持ち、考察しようとする。 相似を利用した方べきの定理の導き方に興味を持つ。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

野津田 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教 科： 理科 科 目： 化学基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 5 組

使用教科書：新編 化学基礎（東京書籍）

教科 理科 の目標： 自然の事物・現象に関わり、理科の味方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに必要な技能を身に付け、
【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎 の目標： 科学的に探究するために必要な知識・技能を日常生活との関わりを意識しながら身に付けさせる。観察、実験を通して、身につけた知識・技能を活用して科学的に探究する力を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験の基本的な技能を身につける。	観察、実験などを行い、化学的な事象について科学的に探究する力を身につける。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か 【知識及び技能】化学の特徴を理解し、それらの観察、実験などに関する技能を身につけさせる。 【思考力・判断力・表現力】観察・実験などを通して、物質の性質について科学的に考察し表現する力を身につけさせる。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりの化学に関する現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か ・身のまわりの物や化学的な事象 ・物質の性質とその利用 実験：チョークと塩酸の反応、エタノールと水の混合 教材：教科書、ワーク、プリント	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か 【知識及び技能】身のまわりには物質が多くあり、化学反応が様々な場面で応用されることを理解している。 【思考力・判断力・表現力】物質の性質をもとに、実験結果を予測したり考察したりすることができる。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりの物質や化学的な事象についての話し合いを通じて、化学とは何か考えようとしている。				2
	2 章 物質の成分と構成元素 【知識及び技能】化学と物質について、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態について理解し、物質を分離・精製する技能を身につけさせる。 【思考力・判断力・表現力】化学と物質について、物質の性質から様々な混合物の分離・精製法を話し合ったり考えたり、表現したりする力を養う。 【学びに向かう力・人間性等】物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態に関する事物・現象を身近な事柄と関連付けながら科学的に探究しようとする態度を養う。	2 章 物質の成分と構成元素 ①物質の成分 ②物質の構成元素 ③物質の三態 実験：混合物の分離（ワインの蒸留、醤油から塩を取り出す） 教材：教科書、ワーク、プリント	2 章 物質の成分と構成元素 【知識及び技能】化学と物質についての実験などを通して、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態について理解しているとともに、ガスバーナーの使用やろ過など基本的な実験操作を行うことができる。 【思考力・判断力・表現力】化学と物質について、物質の性質から様々な混合物の分離・精製法を話し合ったり考えたり、表現したりできる。 【学びに向かう力・人間性等】化学の特徴、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態について、身近な現象と関連付けながら科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	中間調査						
	2 編 物質の構成 1 章 原子の構造と元素の周期表 【知識及び技能】原子の構造、電子配置と周期表について理解させる。 【思考力・判断力・表現力】物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表の構成との関連を考えて表現する力を養う。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりのものの構成元素を調べたり、現象を微視的な視点で探究しようとする態度を養う。	2 編 物質の構成 1 章 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②電子配置と周期表	2 編 物質の構成 1 章 原子の構造と元素の周期表 【知識及び技能】原子の構造、電子配置と周期表について理解している。 【思考力・判断力・表現力】物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表の構成との関連を考えて表現できる。 【学びに向かう力・人間性等】身のまわりのものの構成元素を調べたり、現象を微視的な視点で探究しようとしている。	○	○		1
	2 章 化学結合 【知識及び技能】イオンや化学結合について電子配置の観点から理解し、物質の性質との関係を整理できるようにする。 【思考力・判断力・表現力】イオンや化学結合について、実験・観察などを通してさまざまな物質を分類したり、特徴や考えたことを表現したりする力を身につけさせる。 【学びに向かう力・人間性等】イオンや化学結合に関する実験・観察を通して様々な事物・現象に関	2 章 化学結合 ①イオンとイオン結合 ②分子と共有結合 ③金属と金属結合 ④化学結合と物質の分類 実験：イオンと電導度、物質の分類（化学結合） 使用教材：教科書、ワーク、プリント	2 章 化学結合 【知識及び技能】イオンや化学結合について電子配置の観点から理解し、物質の性質との関係を整理できている。 【思考力・判断力・表現力】イオンや化学結合について、実験・観察などを通してさまざまな物質を分類したり、特徴や考えたことを表現したりすることができる。 【学びに向かう力・人間性等】イオンや化学結合に関する実験・観察を通して様々な事物・現象に関り、身のまわりの事物・現象に結び付けて探究しようとしている。	○	○	○	14

[illegible]

野津田 高等学校 令和6年度（2、3学年用） 教科 理科 科目 物理基礎

教 科： 理科 科 目： 物理基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 3 組 第 3 学年 4 組 ～ 5 組

使用教科書： 改訂 物理基礎（東京書籍）

教科 理科 の目標： 自然の事物・現象に関わり、理科の味方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに必要な技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の表し方についての観察、実験などを通して、物理量の測定と扱い方、運動の表し方、直線運動の加速度について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録など	運動の表し方について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	運動の表し方に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1 編 1 章 運動の表し方 【知識及び技能】 時刻と時間、移動距離と変位、速さと速度の違いを理解する。 v-t グラフ、x-t グラフの特徴を理解する。 運動の特徴やグラフで表したときの特徴を理解する。 自由落下や投げ上げ、投げ下ろしによる運動がどのような運動か理解し、その加速度について理解する。 物体の運動は水平方向と鉛直方向に分けて考えることができることを理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 その運動の特徴を考察し、グラフを用いて正確に表現する。 実験結果をどのように分析すればよいかを科学的に考察する。 自由落下運動や等加速度直線運動、投げ下ろした物体、投げ上げた物体、水平投射された物体の運動のようすを表す式の導き方を理解し、表現する。 【学びに向かう力・人間性等】 身近な物の運動に見られる現象について、自分の体験等を踏まえて考える。 中間考査	1 編 1 章 運動の表し方 ①運動の表し方 ②等速直線運動 ③合成速度と相対速度 ④直線運動の加速度 ⑤落体の運動 実験 教材 教科書、プリント 中間考査	1 編 1 章 運動の表し方 【知識及び技能】 時刻と時間、移動距離と変位、速さと速度の違いを理解している。 v-t グラフ、x-t グラフの特徴を理解している。 運動の特徴やグラフで表したときの特徴を理解している。 自由落下や投げ上げ、投げ下ろしによる運動がどのような運動か理解し、その加速度について理解している。 物体の運動は水平方向と鉛直方向に分けて考えることができることを理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 その運動の特徴を考察し、グラフを用いて正確に表現している。 実験結果をどのように分析すればよいかを科学的に考察している。 自由落下運動や等加速度直線運動、投げ下ろした物体、投げ上げた物体、水平投射された物体の運動のようすを表す式の導き方を理解し、表現している。 【学びに向かう力・人間性等】 身近な物の運動に見られる現象について、自分の体験等を踏まえて考えようとしている。 中間考査				
	1 編 2 章 さまざまな力とそのはたらき 【知識及び技能】 力の 3 要素と、2 つの力が物体にはたらくときの力のつり合いの条件について理解する。 力の合成と分解について、作図を通して理解する。 慣性の法則や運動方程式、作用・反作用の法則、物体にはたらく重力について理解する。 静止摩擦力と動摩擦力の共通点や相違点を理解する。 水中の物体にはたらく水圧や浮力と、アルキメデスの原理について理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 物体にはたらく力、物体に生じる加速度、物体の質量についての関係を定量的に調べ実験結果を科学的に分析、考察し、表現する。 【学びに向かう力・人間性等】 身のまわりのさまざまな物体にはたらく力について主体的に考え、その性質や共通点などについて考える。 期末考査	1 編 2 章 さまざまな力とそのはたらき ①力とつり合い 実験 ②運動の法則 ③さまざまな運動とはたらく力 実験 教材 教科書、プリント 期末考査	1 編 2 章 さまざまな力とそのはたらき 【知識及び技能】 力の 3 要素と、2 つの力が物体にはたらくときの力のつり合いの条件について理解している。 力の合成と分解について、作図を通して理解している。 慣性の法則や運動方程式、作用・反作用の法則、物体にはたらく重力について理解している。 静止摩擦力と動摩擦力の共通点や相違点を理解している。 水中の物体にはたらく水圧や浮力と、アルキメデスの原理について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 物体にはたらく力、物体に生じる加速度、物体の質量についての関係を定量的に調べ実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。 【学びに向かう力・人間性等】 身のまわりのさまざまな物体にはたらく力について主体的に考え、その性質や共通点などについて考えようとしている。 期末考査	○	○	○	12
				○	○	○	14

2 学 期	1 編 3 章 力学的エネルギー 2 編 1 章 熱 【知識及び技能】 仕事とエネルギーの関係、仕事の原理、仕事率について理解する。 運動エネルギーと位置エネルギーについて理解し、定量的に表す。 力学的エネルギーが保存される場合、保存されない場合について理解する。また、熱などまで含めれば全てのエネルギーが保存されている（エネルギー保存の法則が成り立つ）ことを理解する。 熱と温度について理解する。 熱がエネルギーであることや物質の三態と潜熱について理解する。 熱量の保存や熱力学第 1 法則を理解する。 熱効率と可逆変化、不可逆変化について理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 仕事とエネルギーの関係がどうなっているかを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現する。 物質の種類によって温度変化に必要な熱量が異なるかを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現する。 【学びに向かう力・人間性等】 仕事や仕事率、エネルギーについて考察し、表現しようとする。 物質の種類によって温度変化に必要な熱量が異なるかを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察する。 中間考査 【知識及び技能】 波は振動であることを理解し、波源や媒質について理解している。また、直線状に伝わる波の波形について理解する。 $y-x$ グラフと $y-t$ グラフとの関係を理解している。また、波の速さ、周期、振動数、波長の関係を理解する。 波の独立性と波の重ね合わせの原理、定在波について理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 中学校の既習事項から、P 波や S 波について考え、自分なりにそれらの相違点について考え、表現する。 波が重なって定在波ができるようすを、作図を通して表現する。 固有振動の特徴を調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現する。 気柱内に定在波が生じると予測し、それを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現する。 【学びに向かう力・人間性等】 人がつくるウェーブや、リボンを付けたつる巻ばねがつくる波について、異なる点や気付いたことを考えたり表現しようとする。 固有振動の特徴を調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考える。 気柱内に定在波が生じると予測し、それを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考える。 期末考査	1 編 3 章 力学的エネルギー ①エネルギーと仕事 ②運動エネルギーと位置エネルギー ③力学的エネルギーの保存 ④力学的エネルギーが保存されない場合 実験 2 編 1 章 熱 ①温度と熱 実験 ②熱の移動と保存 ③熱と仕事 ④熱効率と不可逆変化 実験 教材 教科書、プリント 中間考査 2 編 2 章 波 ①波を表す ②波の重ね合わせ 実験 ③音の性質 ④弦の固有振動 ⑤気柱の固有振動 実験 教材 教科書、ワーク、プリント 期末考査	1 編 3 章 力学的エネルギー 2 編 1 章 熱 【知識及び技能】 仕事とエネルギーの関係、仕事の原理、仕事率について理解している。 運動エネルギーと位置エネルギーについて理解し、定量的に表すことができる。 力学的エネルギーが保存される場合、保存されない場合について理解している。また、熱などまで含めれば全てのエネルギーが保存されている（エネルギー保存の法則が成り立つ）ことを理解している。 熱と温度について理解している。 熱がエネルギーであることや物質の三態と潜熱について理解している。 熱量の保存や熱力学第 1 法則を理解している。 熱効率と可逆変化、不可逆変化について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 仕事とエネルギーの関係がどうなっているかを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。 物質の種類によって温度変化に必要な熱量が異なるかを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。 【学びに向かう力・人間性等】 仕事や仕事率、エネルギーについて考察し、表現しようとしている。 物質の種類によって温度変化に必要な熱量が異なるかを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察している。 中間考査 【知識及び技能】 波は振動であることを理解し、波源や媒質について理解している。また、直線状に伝わる波の波形について理解している。 $y-x$ グラフと $y-t$ グラフとの関係を理解している。また、波の速さ、周期、振動数、波長の関係を理解している。 波の独立性と波の重ね合わせの原理、定在波について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 中学校の既習事項から、P 波や S 波について考え、自分なりにそれらの相違点について考え、表現している。 波が重なって定在波ができるようすを、作図を通して表現している。 固有振動の特徴を調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。 気柱内に定在波が生じると予測し、それを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。 【学びに向かう力・人間性等】 人がつくるウェーブや、リボンを付けたつる巻ばねがつくる波について、異なる点や気付いたことを考えたり表現しようとしていたりしている。 固有振動の特徴を調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考えようとしている。 気柱内に定在波が生じると予測し、それを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考えようとしている。 期末考査	○	○	○	8
				○	○	○	8

[illegible]

野津田 高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 英語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教 科： 英語 科 目： 英語コミュニケーションⅡ 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 5 組

使用教科書：All Aboard！English Communication Ⅱ

教科 英語 の目標：

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、

【知識及び技能】読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて発展的に活用できる技能を身に付け、積極的に発信する力を養う。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語

【思考力、判断力、表現力等】で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して発展的に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、発展的に

【学びに向かう力、人間性等】外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、4 技能によるコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて発展的に活用する技能を身に付け、積極的に発信する力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて外国語で情報や考えの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して発展的に表現したり伝え合うことができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、発展的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識・技能】 関係代名詞、比較表現の特徴やきまりなどを理解する。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付ける。	○指導事項 ・ Pre-Lesson My Plans for This Year ・ Lesson1 A Colorful Is land 関係代名詞 (what) ・ Lesson2 With the Beatles 比較表現 ○教材 教科書、問題集、プリント、ノート、スマスク端末 ○指導や評価の方法 小テスト、パフォーマンステスト、問題集等の提出物	【知識・技能】 関係代名詞、比較表現の特徴やきまりなどを理解している。コミュニケーションを行う目的等に応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている。	○	○	○	20
	【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりする。		【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりしている。				
	【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。		【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。				
	定期考査			○	○		1
2 学 期	【知識・技能】 it の用法や間接疑問文の特徴やきまりなどを理解する。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付ける。	○指導事項 ・ Lesson 3 Wild Men it の用法 ・ Lesson 4 Little Hero 間接疑問文 ○教材 教科書、問題集、プリント、ノート、スマスク端末 ○指導や評価の方法 小テスト、パフォーマンステスト、問題集等の提出物	【知識・技能】 it の用法や間接疑問文の特徴やきまりなどを理解している。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている。	○	○	○	21
	【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりする。		【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりしている。				
	【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。		【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。				
	定期考査			○	○		1
2 学 期	【知識・技能】 to 不定詞を含む表現や動詞の目的語になるif 節の特徴やきまりなどを理解する。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付ける。	○指導事項 ・ Lesson 5 Special Makeup in Kabuki to 不定詞を含む表現 ・ Lesson6 Seeds for Future Generations 動詞の目的語になるif 節 ○教材 教科書、ワークブック、プリント、ノート、スマスク端末 ○指導や評価の方法 小テスト、パフォーマンステスト、ワークブック等の提出物	【知識・技能】 to 不定詞を含む表現や動詞の目的語になるif 節の特徴やきまりなどを理解している。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている。	○	○	○	19
	【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりする。		【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりしている。				
	【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。		【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。				
	定期考査			○	○		1
2 学 期	【知識・技能】	○指導事項	【知識・技能】				

3 学 期	関係副詞や知覚動詞の特徴やきまりなどを理解する。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりする。 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとする。	- Lesson 7 Over the Wall 関係副詞 - Lesson 8 Inspiration from Nature 知覚動詞 ○教材 教科書、ワークブック、プリント、ノート、スマスク端末 ○指導や評価の方法 小テスト、ワークブック等の提出物	関係副詞や知覚動詞の特徴やきまりなどを理解している。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	【知識・技能】 使役動詞や分詞構文の特徴やきまりなどを理解する。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付ける。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりする。 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとする。	○指導事項 - Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate 使役動詞 - Lesson 10 Fighting Angel 分詞構文 ○教材 教科書、ワークブック、プリント、ノート、スマスク端末 ○指導や評価の方法 小テスト、パフォーマンステスト、ワークブック等の提出物	【知識・技能】 使役動詞や分詞構文の特徴やきまりなどを理解している。コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて話された文等を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを行う目的などに応じて、日常的な話題などについて、情報や考えなどを、話したり書いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
							合計
							105

野津田 高等学校令和 6 年度（2 学年用）教科 英語 科目 論理表現Ⅱ

教 科： 英語 科 目： 論理表現Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 3 組

使用教科書：

教科 英語

の目標：

【知識及び技能】外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて発展的に活用できる技能を身に着けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社旗的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して発展的に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的、発展的に外国語を用いてコミュニケーションを取ろうとする態度を養う。

科目 論理表現Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の基本的な語句や文を理解し、日常的な話題などについて意見を述べたり、賛成反対の意見を根拠を示しながら伝え合うことができる。	自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように、事例や根拠を示しながら説明することができる。また社会的な話題について背景知識を活用しながら自分の考えを述べたり相手の考えを引き出したりすることができる。	自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように様々な表現を用いるなどの工夫をして伝え合おうとしている。また、相手の意見に応じて自分の考えを示しながらよりよいやり取りになるよう努めている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1st Zone 自分の日常生活について話す Lesson 1 最近の出来事について説明する Lesson 2 有名人の経歴について説明する Lesson 3 できること・すべきことについて話す 【知識及び技能】 現在・過去・未来の表し方や完了形を使った表現を身に着ける。授道程を用いた表現を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などの表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることで発展的なやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 1 現在・過去・未来の表現 Lesson 2 現在完了・過去完了の表現 Lesson 3 助動詞を用いた推測の表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト ・一人 1 台端末の活用	【知識・技能】 現在・過去・未来の表し方や完了形・助動詞を使って日常生活について英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の発言に対して感想を述べる、自分の興味に基づいた物事を紹介する、相手の話題について推測を述べる、日本の文化について紹介する、などして英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を相手に伝えたり、相手の言いたいことを確かめたり推測しながら聞いたりすることでよりよいコミュニケーションになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	Lesson 4 日本の文化・ものについて話す 2nd Zone 社会とのかかわりについて話す Lesson 5 防災について考える Lesson 6 都市構造について議論する 【知識及び技能】 受動態を用いた「～される」の表現や不定詞を用いた様々な表現を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 伝統文化について伝えたり、社会的課題について論じたりする表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 相手の発言内容を確認したり、理由をたずねたりしながらよりよいやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 4 受動態を用いた表現 Lesson 5 不定詞の名詞的・形容詞的・福祉的用法を用いた表現 Lesson 6 to不定詞を用いた様々な表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト ・一人 1 台端末の活用	【知識・技能】 受動態を用いた「～される」の表現や不定詞を用いた様々な表現を使って日常生活や社会とのつながりについて英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 相手の意見やその理由を尋ねる、聞き返すなどして相手の意見や発言に応じて英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 相手の発言内容を確認したり理由をたずねたりしながら発展的なやり取りになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	Lesson 7 食について考える Lesson 8 ICTとバリアフリー社会について考える 3rd Zone グローバリゼーションとアイデンティティ	・指導事項 Lesson 7 「～すること」のほか、動名詞の様々な表現 Lesson 8 現在分詞と過去分詞を用いた様々な表現	【知識・技能】 「～すること・したこと・されること」を動名詞を使って表現する。「～している…」と分詞などで説明を加えた表現。関係代名詞を用いて人物や場所について説明するなどし				

	Lesson 9 世界平和に貢献した人々について知る 【知識及び技能】 「～すること」のほか、動名詞の様々な表現、分詞を用いた様々な表現、関係代名詞を用いた表現を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 社会的課題について意見を交換する、人物や場所などについて説明する表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 社会的課題について意見を述べたり、人物や場所について説明を付け加えたりしながらよりよいやり取りになるよう工夫する。	Lesson 9 関係代名詞を用いて人物や場所などについて説明する表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト ・一人1台端末の活用	で英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 社会的課題について意見を交換したり、人物や場所などについて説明する表現を用いて英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 社会的課題について意見を述べたり、人物や場所について説明を付け加えたりしながらよりよいやり取りになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
2 学期	Lesson 10 世界の国々について知る Lesson 11 健康と生活について考える Lesson 12 様々な立場に立って考える 【知識及び技能】 関係副詞を使って場所や理由などの説明を加えた表現をする。比較を用いた様々な表現を身に着ける。仮定法を使って想像の話や願望の表現を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の経験を説明を加えながら伝える、比較をしながら健康について話す、仮定をしながら異なる立場の考えを伝える表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の経験を場所などの説明を加えながら伝えたり、差の程度や倍数などを加えながら健康について話したり、事実と異なる仮定に基づいて意見を伝え、よりよいやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 10 ときや場所・理由の説明などを伴う様々な表現 Lesson 11 差の程度や倍数などを用いた様々な比較の表現 Lesson 12 事実と異なる仮定に基づいて自分の考えを伝える表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 関係副詞を使って場所や理由などの説明を加えた表現、比較を用いた様々な表現、仮定法を使って想像の話や願望の表現を用いて英語でやり取りできる。 【思考・判断・表現】 自分の経験を説明を加えながら伝える、比較をしながら健康について話す、仮定をしながら異なる立場の考えを伝えるなどの表現を用いて英語でやり取りができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の経験を場所などの説明を加えながら伝えたり、差の程度や倍数などを加えながら健康について話したり、事実と異なる仮定に基づいて意見を伝え、よりよいやり取りになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
3 学期	4th Zone 文化や情報の受容とコミュニケーションスキル Lesson13 文化と認知の関係について知る Lesson 14 ニュースなどの内容を伝える Lesson 15 自分らしい生き方について考える 【知識及び技能】 様々な否定の表現を身に着ける。時制の一致や語法を転換した表現を身に着ける。無生物主語や協調などの特徴的な構文を用いた表現を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 文化的認知の違いを説明する、他人の発言を伝えたり疑問・命令を間接的に伝える、特徴的な構文を用いて英語らしい表現を身に着ける。 【学びに向かう力、人間性等】 文化的な認知の違いについて説明を述べたり、情報を間接的に伝えたり、特徴的な構文を使って要求や提案・強調を伝え、よりよいやり取りになるよう工夫する。	・指導事項 Lesson 13 「ほとんどない、全くない」などの様々な否定表現、付加疑問で同意を求めたり間接的な疑問の表現 Lesson 14 語法の転換やそれに伴う時制の表現、疑問や命令を間接的に伝える表現 Lesson 15 特徴的な英語の構文を用いて提案や要求、協調を伝える表現 ・教材 教科書・ワークブック・補充プリント ・パフォーマンステスト ・一人1台端末の活用	【知識及び技能】 様々な否定の表現、時制の一致や語法を転換した表現、無生物主語や協調などの特徴的な構文を用いた表現を用いて英語でやり取りできる。 【思考力、判断力、表現力等】 文化的認知の違いを説明する、他人の発言を伝えたり疑問・命令を間接的に伝える、特徴的な構文を用いて英語らしい表現で伝えるなどして英語でやり取りできる。 【学びに向かう力、人間性等】 文化的な認知の違いについて説明を述べたり、情報を間接的に伝えたり、特徴的な構文を使って要求や提案・強調を伝え、よりよいやり取りになるよう工夫して英語でやり取りできる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	2. 安全な社会生活 【知識及び技能】 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。 【思考力、判断力、表現力等】 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。 【学びに向かう力、人間性等】 現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとする。 定期考査	指導項目・内容 (ア) 安全な社会づくり (イ) 応急手当 使用教材 ・教科書、各種資料 ○ICT機器の活用、1人1台端末の活用	【知識及び技能】 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。 【思考力、判断力、表現力等】 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。 【学びに向かう力、人間性】 現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとする。	○	○	○	12
2 学期	3. 生涯を通じる健康 【知識及び技能】 生涯を通じる健康について理解を深めること。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとする。 定期考査	指導項目・内容 (ア) 生涯の各段階における健康 (イ) 労働と健康 使用教材 ・教科書、各種資料 ○ICT機器の活用、1人1台端末の活用	【知識及び技能】 生涯を通じる健康について理解を深めること。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 【学びに向かう力、人間性】 生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとする。	○	○	○	12
3 学期	4. 健康を支える環境づくり 【知識及び技能】 健康を支える環境づくりについて理解を深めること。 【思考力、判断力、表現力等】 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 健康を支える環境づくりに関する学習に主体的に取り組もうとする。 定期考査	指導項目・内容 (ア) 環境と健康 (イ) 食品と健康 (ウ) 保健医療制度及び地域の保健・医療機関 (エ) 健康に関する環境づくりと社会参加 ・教科書、各種資料 ○ICT機器の活用、1人1台端末の活用	【知識及び技能】 健康を支える環境づくりについて理解を深めること。 【思考力、判断力、表現力等】 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 【学びに向かう力、人間性】 健康を支える環境づくりに関する学習に主体的に取り組もうとする。	○	○	○	11 合計 35

[illegible]

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価標準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。	〈スポーツテスト〉 スポーツテストの指数を上向させるために練習を行う。 〈水泳競技〉 クロール、平泳ぎの練習。泳力チェック後、泳力別指導。 (球技) ①サッカー リフティング、キックの練習（インサイド・インステップ・インフロントパス・シュートへの適用） トラップ、ドリブル・フェイント 基礎的な技能を生かしてのゲーム及び審判法を学ぶ ④卓球 フォアハンドストローク、ハーフボレー、ショートカット、カットサーブス、左右へのフットワーク ⑤バレー アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、トス、アタック、ブロック、サーブ、状況に応じた三段攻撃	〈スポーツテスト・陸上〉 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。 〈水泳〉 【知識及び技能】 ・クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり早く泳ぐことができる。 ・平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり早く泳ぐことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取組方を工夫するとともに自己の考えたことを他者に伝えることができる。	○	○	○	22
	2 学 期	【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。	〈陸上〉 持久走 〈体育理論〉 ◇スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展 （ア）スポーツの歴史的発展と多様な変化 （イ）現代のスポーツの意義や価値 （ウ）スポーツの経済的効果と高潔さ （エ）スポーツが環境や社会にもたらす影響 ◇運動やスポーツの効果的な学習の仕方 （ア）運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害 （イ）スポーツの技術と技能及びその変化 （ウ）運動やスポーツの技能の上達過程 （エ）運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方	【知識及び技能】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができる。 〈体育理論〉 【知識及び技能】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について学習に積極的に取り組むこと。	○	○	○
3 学 期		【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。					22
	合計						

[illegible]

合計	35
----	----

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識及び技能】 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを深く味わい、状況に応じたル操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開することができるようにする。	【テニス】 基礎技術の習得 ・フォアハンド ・バックハンド ・ボレー ・サーブ ・ラリー 試合形式 ・ゲームの進め方 ・審判 ・ルール ・ゲーム (シングルス・ダブルス)	【知識及び技能】 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを深く味わい、状況に応じたル操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開することができる。	○	○	○	22
2 学 期	【思考力、判断力、表現力等】 練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案できるようにする。また、チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付け仲間伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にすること、また、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする態度を養う。	【バドミントン】 基礎技術の習得 ・サーブ ・各種ショット ・ドライブ ・ヘアピン ・クリアー ・ドロップ ・スマッシュ ・ラリー 試合形式 ・ゲームの進め方 ・審判 ・ルール ・ゲーム (シングルス・ダブルス) 【ソフトボール】 基礎技術の習得 ・キャッチボール ・捕球練習（ゴロ・フライ） ・打撃練習（トス・フリー） 応用練習 ・シートノック ・ゲームバッティング 試合形式 ・試合の進め方 ・審判 ・ルール ・ゲーム	【思考力、判断力、表現力等】 練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案できるようにする。また、チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付け仲間伝えることができる力を身に付けている。 【学びに向かう力、人間性等】 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にすること、また、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする態度を身に付けている。	○	○	○	26
3 学 期				○	○	○	22
							合計
							70

野津田 高等学校 令和 6 年度（2 学年用） 教科 保健体育 科目 スポーツⅢ
 教 科： 保健体育 科 目： スポーツⅢ 単位数： 1 単位
 対象学年組： 第 2 学年 5 組～ 組
 使用教科書：

の目標：

- | | |
|----------------|--|
| 【知識及び技能】 | 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 |
| 【思考力、判断力、表現力等】 | 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 |
| 【学びに向かう力、人間性等】 | 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。 |

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
武道及び諸外国の対人的競技等の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	武道及び諸外国の対人的競技等における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	武道及び諸外国の対人的競技等の学習に主体的に取り組むとともに、伝統的な行動の仕方、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

[illegible]

35

年間授業計画

野津田 高等学校 令和 6 年度（2 学年用） 教科 保健体育 科目 スポーツⅤ

教 科： 保健体育 科 目： スポーツⅤ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 5 組～ 組

使用教科書：

教科 保健体育 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。

科目 スポーツⅤ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自然との関わりやの深い野外の運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	自然との関わりやの深い野外の運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	自然との関わりやの深い野外の運動の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期							
2 学 期	【知識及び技能】 自然との関わりやの深い野外の運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自然との関わりやの深い野外の運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 自然との関わりやの深い野外の運動の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。	指導項目・内容 競技型の野外運動への多様な関わり方 ・キャンプ ※本科目は特期集中講座である	【知識及び技能】 自然との関わりやの深い野外の運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自然との関わりやの深い野外の運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 自然との関わりやの深い野外の運動の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。	○	○	○	実習 3日間 事前指導 30時間 事後指導 16時間 合計 70
3 学 期							合計 70

年間授業計画

野津田 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 スポーツⅥ

教科： 保健体育 科目： スポーツⅥ 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年 5 組～ 組

使用教科書：

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。

科目 スポーツⅥ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	体づくり運動の学習に主体的に取り組むとともに、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識及び技能】 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	集団行動（隊列の変形、行進） 各種ストレッチング（1学年の体育理論で学んだ筋を意識させる）	【知識及び技能】 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	○	○	○	5
	【思考力、判断力、表現力等】 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	野外レクリエーション（体を使った表現の工夫） 自然環境の中での各種運動	【思考力、判断力、表現力等】 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。				
	【学びに向かう力、人間性等】 体づくり運動の学習に主体的に取り組むとともに、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。		【学びに向かう力、人間性等】 体づくり運動の学習に主体的に取り組むとともに、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。	○	○	○	6
2 学 期	【知識及び技能】 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	野外レクリエーション（体を使った表現の工夫） 自然環境の中での各種運動	【知識及び技能】 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	○	○	○	4
	【思考力、判断力、表現力等】 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	集団行動	【思考力、判断力、表現力等】 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。				
	【学びに向かう力、人間性等】 体づくり運動の学習に主体的に取り組むとともに、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。		【学びに向かう力、人間性等】 体づくり運動の学習に主体的に取り組むとともに、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。	○	○	○	9
3 学 期	【知識及び技能】 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	集団行動 縄跳び 持久走	【知識及び技能】 体づくり運動の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。	○	○	○	11
	【思考力、判断力、表現力等】 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。		【思考力、判断力、表現力等】 体づくり運動における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。				
	【学びに向かう力、人間性等】 体づくり運動の学習に主体的に取り組むとともに、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。		【学びに向かう力、人間性等】 体づくり運動の学習に主体的に取り組むとともに、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。				
							合計
							35

野津田 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 スポーツ総合演習

教 科： 保健体育 科 目： スポーツ総合演習 単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 組～ 組

使用教科書：

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。

科目 スポーツ総合演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。	スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための課題研究に主体的に取り組む態度を養う。

[illegible]

年間授業計画

野津田 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科

保健体育

科目 スポーツ概論

教科： 保健体育 科目： スポーツ概論 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年 5 組～ 組

使用教科書：

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活気ある生活を営む態度を養う。

科目	スポーツ概論	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。	スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	【知識及び技能】 自己に適した生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計していくためには、各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツへの関わり方の特徴や条件があること、それらの特徴や条件に応じて無理なくスポーツを継続するための計画を立てることがあること、生涯スポーツの実践を支える環境を確保するためのスポーツの推進に向けた施策や条件及び自身の意思決定などがあることについて理解する。	【指導項目】 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方 【使用教材】 ・教科書、各種資料 ICT機器の活用、1人一台端末の活用	【知識及び技能】 自己に適した生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計していくためには、各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツへの関わり方の特徴や条件があること、それらの特徴や条件に応じて無理なくスポーツを継続するための計画を立てることがあること、生涯スポーツの実践を支える環境を確保するためのスポーツの推進に向けた施策や条件及び自身の意思決定などがあることについて理解している。	○	○	○	9
	【思考力、判断力、表現力等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝える力を養う。		【思考力、判断力、表現力等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝える力を身に付けている。	○	○	○	1
2 学 期	【知識及び技能】 スポーツの多様な推進及び発展に寄与するためには、対象者に応じたスポーツの指導法や参加者の経験や体力に応じた健康・安全の確保の仕方を理解する。	【指導項目】 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方 ・スポーツの多様な指導法と健康・安全 【使用教材】 ・教科書、各種資料 ICT機器の活用、1人一台端末の活用	【知識及び技能】 スポーツの多様な推進及び発展に寄与するためには、対象者に応じたスポーツの指導法や参加者の経験や体力に応じた健康・安全の確保の仕方を理解している。	○	○	○	13
	【思考力、判断力、表現力等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝える力を養う。		【思考力、判断力、表現力等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝える力を身に付けている。	○	○	○	1
3 学 期	【知識及び技能】 スポーツの多様な推進及び発展に寄与するためには、対象者に応じたスポーツの指導法や参加者の経験や体力に応じた健康・安全の確保の仕方を理解する。	【指導項目】 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方 ・スポーツの多様な指導法と健康・安全 【使用教材】 ・教科書、各種資料 ICT機器の活用、1人一台端末の活用	【知識及び技能】 スポーツの多様な推進及び発展に寄与するためには、対象者に応じたスポーツの指導法や参加者の経験や体力に応じた健康・安全の確保の仕方を理解している。	○	○	○	10
	【思考力、判断力、表現力等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝える力を養う。		【思考力、判断力、表現力等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方について「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な関わり方において、スポーツを推進及び発展させる視点から課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、理由を添えて他者に伝える力を身に付けている。	○	○	○	1
	【学びに向かう力、人間性等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組む態度を養う。		【学びに向かう力、人間性等】 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組む態度を身に付けている。	○	○	○	合計 35

年間授業計画

野津田 高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

教 科： 芸術 科 目： 音楽Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 5 組

使用教科書： MOUSAⅡ （教育芸術社）

教科 芸術 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当
1 学 期	○歌唱 【知識及び技能】 伸びやかな発声で歌唱する 【思考力、判断力、表現力等】 曲調や歌詞を理解し歌唱表現ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 楽曲に興味を持ち積極的に学ぼうとする姿勢を養う。	○歌唱 ・花	【知識及び技能】 実技テストにより伸びやかな発声で歌唱できているか。 【思考力、判断力、表現力等】 実技テストにより曲調や歌詞を理解し歌唱表現ができているか。 【学びに向かう力、人間性等】 楽曲に興味を持ち積極的に学ぼうとする姿勢が見られるか。	○	○	○	4
	○楽典、ソルフエージュ 【知識及び技能】 音符、休符についての基礎知識を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 音符、休符を読み演奏できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽の基礎知識を積極的に学ぼうとする姿勢を養う。	○楽典、ソルフエージュ ・八分音符までのリズムを手拍子で演奏する	【知識及び技能】 実技テストにより音符、休符についての基礎知識を理解しているか。 【思考力、判断力、表現力等】 実技テストにより音符、休符を読み演奏できているか。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽の基礎知識を積極的に学ぼうとする姿勢が見られるか。	○	○	○	3
	○キーボード 【知識及び技能】 鍵盤の位置、楽譜を理解し簡単な楽曲を演奏できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 曲調に合わせて工夫しながら表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 キーボードに興味を持ち技術を向上させようという姿勢を養う。	○キーボード ・よるこびのうた ・こびとがひとり森の中で ・特賞歌 ・カッコウ ・5 本指のエチュード ・いとまきのうた	【知識及び技能】 実技テストにより基本的なキーボードの演奏技術がついているか。 【思考力、判断力、表現力等】 実技テストにより演奏の工夫があるか。 【学びに向かう力、人間性等】 キーボードに興味を持ち技術を向上させようという姿勢が見られるか。	○	○	○	10
	○鑑賞 【知識及び技能】 音楽を形作っている諸要素について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 音楽を形作っている諸要素から楽曲について表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 楽曲に興味を持ち積極的に観賞しようとする姿勢を養う。	○鑑賞 ・音楽を形作っている諸要素について学ぶ	【知識及び技能】 ワークシートを通じ音楽を形作っている諸要素について理解しているか。 【思考力、判断力、表現力等】 ワークシートを通じ音楽を形作っている諸要素から楽曲について表現しているか。 【学びに向かう力、人間性等】 楽曲に興味を持ち積極的に観賞しようとする姿勢が見られるか。	○	○	○	3
	○創作 【知識及び技能】 コード進行に適したメロディを創作し、演奏する。 【思考力、判断力、表現力等】 リズムや音の選び方によりメロディ構成に工夫をする 【学びに向かう力、人間性等】 コード進行とメロディの関わりに関心を持ち主体的に創作を行う。	○創作 ・カノンのコード進行にのせてメロディを創作し、キーボードで演奏す	【知識及び技能】 コード進行に適したメロディを創作し、演奏できているか。 【思考力、判断力、表現力等】 リズムや音の選び方によりメロディ構成に工夫をしているか。 【学びに向かう力、人間性等】 コード進行とメロディの関わりに関心を持ち主体的に創作活動を行えているか。	○	○	○	5

2 学 期	○楽典、ソルフェージュ 【知識及び技能】 イタリア語音名、日本語音名、英語音名、臨時記号について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 イタリア語音名、日本語音名、英語音を表現に使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽の基礎知識を積極的に学ぼうとする姿勢を養う。	○楽典、ソルフェージュ ・ヘ音記号、ト音記号3オクターブまでの読譜	【知識及び技能】 実技テスト、ワークにより音名、臨時記号について理解できているか。 【思考力、判断力、表現力等】 実技テストによりイタリア語音名、日本語音名、臨時記号を表現に使うことができているか。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽の基礎知識を積極的に学ぼうとする姿勢が見られるか。	○	○	○	3
	○歌唱 【知識及び技能】 伸びやかな発声で歌唱する 【思考力、判断力、表現力等】 曲調や歌詞を理解し歌唱表現ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 楽曲に興味を持ち積極的に学ぼうとする姿勢を養う。	○歌唱 ・Dona Nobis Pacem	【知識及び技能】 伸びやかな発声で歌唱できているか。 【思考力、判断力、表現力等】 曲調や歌詞を理解し歌唱表現ができているか。 【学びに向かう力、人間性等】 楽曲に興味を持ち積極的に学ぼうとする姿勢が見られるか。	○	○	○	4
	○ギター 【知識及び技能】 コードネーム、TAB譜の学習とともにギターの基本奏法を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 曲調に合わせて工夫しながら表現する 【学びに向かう力、人間性等】 ギターに興味を持ち技術を向上させようという姿勢を養う。	○ギター ・カントリーロード	【知識及び技能】 実技テストにより基本的なギターの演奏技術がついているか 【思考力、判断力、表現力等】 実技テストにより演奏の工夫があるか 【学びに向かう力、人間性等】 ギターに興味を持ち技術を向上させようという姿勢が見られるか。	○	○	○	10
3 学 期	○ヴァイオリン 【知識及び技能】 ヴァイオリンの構造や基本構造を理解し演奏ができる 【思考力、判断力、表現力等】 よりよい音色が出るよう工夫して演奏表現ができる 【学びに向かう力、人間性等】 協力して教え合い、ヴァイオリン演奏の上達を目指す	○ヴァイオリン ・きらきらぼし ・かえるのうた	【知識及び技能】 ヴァイオリンの基本奏法を理解し演奏ができているか。 【思考力、判断力、表現力等】 曲調に合わせて表現の工夫をしているか。 【学びに向かう力、人間性等】 ヴァイオリンに興味を持ち積極的に取り組んでいるか。	○	○	○	8
	○自由課題 【知識及び技能】 2年間の学習の成果を生かし技術の高い演奏をする。 【思考力、判断力、表現力等】 演奏上の工夫を自ら考え実践に生かす。演奏における鑑賞の能力を養 【学びに向かう力、人間性等】 主体的、計画的に課題に取り組み、仲間と協力する力を養う。	○自由課題 ・内容、楽曲を自身で設定すると共に活動計画を立て自主的に練習し、最終時に発表を行う	【知識及び技能】 自身で設定した課題において完成度の高い演奏ができているか。 【思考力、判断力、表現力等】 楽曲の演奏における表現の工夫をしているか。自身および他者の演奏について適格に観賞でき 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に活動に参加しているか、計画的に活動できているか。	○	○	○	20
	合計						70

年間授業計画

野津田 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 芸術 科目 美術

教科：芸術 科目：美術 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 3 組、5 組

使用教科書：美術 I（光村出版）

教科 芸術 の目標： 美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

【知識及び技能】 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

科目 美術 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
発想や構想をしたことを基に、自分の表現を具体化するために、主題に合った効果的な表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表せるようにする。	感じ取ったことや考えたことなどから生成した主題を基に、それぞれの表現形式の良さや効果などについて考えることができる。また、主題に合った表現形式を選択し、独自性や自分らしさを発揮しながら創造的な表現の構想を練るようになる。	主体的に美術作品や文化遺産などのよさや美しさ、表現の独自性などを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫、心豊かな生き方の創造に関わる美術の働きや自己の価値観を高めて、美術作品や美術の働き、美術文化についての見方や考え方を深める態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識及び技能】 色彩が感情にもたらす効果を理解する 【思考・判断・表現】 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深める 【学びに向かう力・人間性】 主体的に色彩や絵の具の特性について学び、表現の創造的な諸活動に取り組む態度を養う	■絵画：色彩について ・色彩について学習し、アクリル絵の具で平塗りの練習、混色の練習を行う あわせて配色について学び、意図に応じた配色方法について学ぶ	【知識及び技能】 色彩が感情にもたらす効果を理解している 【思考・判断・表現】 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めている 【学びに向かう力・人間性】 主体的に色彩や絵の具の特性について学び、感表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている	○	○	○	6
	【知識及び技能】 形や色などがもたらす効果や、造形的な特徴などをとくに、文化祭ポスターを全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解する 【思考・判断・表現】 伝えたいイメージをもとに、デザインの機能や効果、統一感をもたせた作品形態や表現方法、配色や構成などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る 【学びに向かう力・人間性】 主体的に伝えたいイメージや伝える相手などについて考え、効果的にイメージを伝える表現の創造的な諸活動に取り組む態度を養う	■デザイン：文化祭ポスター制作 ・スローガンをもとに、ポスターの図案を考え、文化祭（野津田祭文化部門）のポスターデザインの構想を練る ・ケント紙に下書きし、アクリル絵の具を使用して着彩する ・自分の作品のプレゼンテーションと他者作品の鑑賞	形や色などがもたらす効果や、造形的な特徴などをとくに、文化祭ポスターを全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している 【思考・判断・表現】 伝えたいイメージをもとに、デザインの機能や効果、統一感をもたせた作品形態や表現方法、配色や構成などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている 【学びに向かう力・人間性】 主体的に伝えたいイメージや伝える相手などについて考え、効果的にイメージを伝えるポスターデザインを工夫する表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている	○	○	○	14
	【知識及び技能】 亀倉のデザインを全体のイメージや作風、様式などで捉える 【思考・判断・表現】 亀倉のデザインの目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、見方や感じ方を深める 【学びに向かう力・人間性】 主体的に亀倉のデザインの目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、鑑賞の創造的な諸活動に取り組む態度を養う	■デザイン鑑賞：亀倉雄策 ・亀倉雄策の生涯と作品について、教科書やスライドを見て学習する ・個人端末で亀倉雄策について調べ、気になった作品等についてまとめ、ショートプレゼンテーションを行う	【知識及び技能】 亀倉のデザインを全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している 【思考・判断・表現】 亀倉のデザインの目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、見方や感じ方を深めている 【学びに向かう力・人間性】 主体的に亀倉のデザインの目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている	○	○	○	6
2 学 期	モチーフとなる食品の特徴をとらえ、材料や用具の特性を生かして個性豊かで創造的にあらわす 【思考・判断・表現】 モチーフを深く見つめ、形や色、構成などについて創造的な構想を練る 【学びに向かう力・人間性】 主体的に粘土の特性やモチーフと特徴を表す方法について学び、表現の創造的な諸活動に取り組む態度を養う	■彫刻：食品サンプル作成 ・食品サンプル完成までのプロセスの説明を理解し、何をどのように作るかアイディアスケッチを行う ・樹脂粘土を主の素材として使用して制作を行う ・自分の作品のプレゼンテーションと他者作品の鑑賞	【知識及び技能】 モチーフとなる食品の特徴をとらえ、材料や用具の特性を生かして個性豊かで創造的にあらわしている 【思考・判断・表現】 モチーフを深く見つめ、形や色、構成などについて創造的な構想を練っている 【学びに向かう力・人間性】 主体的に粘土の特性やモチーフと特徴を表す方法について学び、表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている	○	○	○	16
	【知識・技能】 形や色、材料など造形的な特徴をもとに、さまざまな時代の作品を全体のイメージで捉えることを理解する 【思考・判断・表現】 さまざまな時代の作品の造形的なよさや美しさを比較しながら感じ取るとともに、時代、民族、風土、宗教などによる表現の共通点や相違点などから美術や美術文化について考え、見方や感じ方を深める 【学びに向かう力・人間性】 主体的にさまざまな時代の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、鑑賞の創造的な諸活動に取り組む態度を養う	■絵画・彫刻鑑賞：近代～現代の美術 ・スライドや個人端末を用いて近代から現代の美術作品について鑑賞し、様式や変遷を理解する ・感じたことや気づいたこと、調べて分かったことなどを話し合う	【知識・技能】 形や色、材料など造形的な特徴をもとに、さまざまな時代の作品を全体のイメージで捉えることを理解している 【思考・判断・表現】 さまざまな時代の作品の造形的なよさや美しさを比較しながら感じ取るとともに、時代、民族、風土、宗教などによる表現の共通点や相違点などから美術や美術文化について考え、見方や感じ方を深めている 【学びに向かう力・人間性】 主体的にさまざまな時代の作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている	○	○	○	6

3 学 期	【知識・技能】 サンドブラスト技法やガラス皿の特性を理解して創意工夫し、個性豊かで創造的にあらかわす 【思考・判断・表現】 お皿を使う場面や目的などをもとに、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている 【学びに向かう力・人間性】 主体的に作品を使う場面などについて考え、表現の創造的な諸活動に取り組む態度を養う	■デザイン：サンドブラスト：ガラス皿制作 ・設計図を作る ・マスキングシートを切り抜き、サンドブラスト機で絵柄を彫刻する ・自分の作品のプレゼンテーションと他者作品の鑑賞	【知識・技能】 サンドブラスト技法やガラス皿の特性を理解して創意工夫し、個性豊かで創造的にあらかわしている 【思考・判断・表現】 お皿を使う場面や目的などをもとに、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている 【学びに向かう力・人間性】 主体的に作品を使う場面などについて考え、表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている	○	○	○	16
	【知識・技能】 映像技法の効果や特徴などをもとに、映像作品を全体のイメージや作風などで捉えることを理解する 【思考・判断・表現】 映像作品を細部まで鑑賞し、表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める 【学びに向かう力・人間性】 主体的に作品を細部まで鑑賞し、映像表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組む態度を養う	■映像メディア鑑賞：ミュージックビデオの構成と効果 ・映像制作方法や技法による印象の違い、ミュージックビデオならではの表現を理解する。 ・作品をみて絵コンテを描き起こしながら細部まで鑑賞し、形や色、構図や技法などをもとに表現の意図や工夫を感じ取る	【知識・技能】 映像技法の効果や特徴などをもとに、映像作品を全体のイメージや作風などで捉えることを理解している 【思考・判断・表現】 映像作品を細部まで鑑賞し、表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている 【学びに向かう力・人間性】 主体的に作品を細部まで鑑賞し、映像表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている	○	○	○	6
	合計						70

年間授業計画

野津田 高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 芸術 科目 書道Ⅱ

教 科： 芸術 科 目： 書道Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 3 組、 5 組

使用教科書： 書道Ⅱ （東京書籍）

教科 芸術 の目標：

- 【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることがで
- 【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 書道Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現や形式、多様性などについて幅広く知り、書の技法を身に付け、書写能力の向上を図る。同時に書の歴史を知り、自己表現のための基礎的な考え方と技能を身に付ける。	書に対する考えを深め、自己が対象物に対して感じる印象を言語化し、書の美を主体的に味わう。また自己の創作意図に沿って構想と表現を工夫し制作に取り組む。	臨書や創作などの書の幅広い活動に取り組みながら、筆記具で文字を書くことを楽しみ味わい、生涯を通じて書を愛好する心情を育む。書文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創り出す助けを行う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元①《書道入門》 【知識及び技能】 正しく整えて書く書写から、自己表現、芸術科としての書道の位置付けを生徒に理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 国語科書写で培った基礎的な用筆、結構などを再確認し、生徒が一人一人目的に応じて書体（楷書、行書）の選択を行い、的確に表現できる力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 硬筆の学習を通じて、小中学校国語科書写において養った基礎を発展させる。芸術の書としてだけでなく、日常生活において必要な実用的な側面についても指導していく。	○書写と書道の違い →芸術科書道と国語科書写の目的の違い ○筆墨硯紙について →文房四宝の理解 筆墨硯紙の歴史 色々な現物を見て体験的に学ぶ 筆…大筆、小筆、毛の種類 墨…油煙、松煙、和墨、唐墨 硯…端溪など中国産、雄勝など 国産のもの 紙…画仙紙、料紙など ○硬筆で楷書を書く →硬筆の持ち方、姿勢など 教材：筆墨硯紙、書道Ⅰ 硬筆ノート	【知識・技能】 書写と書道の視点の違いを理解できたか。 また、文房四宝についての基礎的な知識を理解できたか。実用的な基礎である、硬筆の書き方を修得できたか。 【思考・判断・表現】 ノートを取る際、正式な書類を書く際など、それぞれの場面に応じて適切な書体を選択し書写することができたか。また、国語科書写で学んだことを活かし丁寧に書写活動を行うことができたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ノートやプリントなど積極的な取り組みを通じて、書写と書道の違いを自分なりに考え、芸術科書道における目標を認識できているか。	○	○	○	6
	単元②《楷書の学習》 【知識及び技能】 小中学校で行った国語科書写の復習を通じて、基本的な運筆を確認する。臨書の学習方法を知り、書風を意識しながら臨書する。また同時に古典が書かれた背景を理解し、当時の書文化についての知識を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」、「雁塔聖教序」と「建中告身帖」の比較・臨書を通じて書風の違いを認識し、書き分ける眼と技術を養う。九成宮の厳しい背勢の構え、孔子廟の温雅さ、雁塔の抑揚、建中の肉太さなどを体験的に味わい、その特徴を毛筆で追体験する。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な楷書の書風を知ること、身の回りの文字に興味を持ち、書風の違いが与える印象の違いを理解しようとする。また古典の書者について知ることで、生きる時代は違えど当時の社会生活から書が生まれたことを理解する。	○基本点画 →縦画、横画、点、ハネ、ハライなど 《初唐三大家の臨書》 ○「九成宮醴泉銘」 ○「孔子廟堂碑」 ○「雁塔聖教序」 ○「建中告身帖」 ○「牛欄造像記」 ○拓本実習 教材：筆墨硯紙、書道Ⅰ 拓本道具	【知識・技能】 毛筆を持つ際の基本姿勢、筆の持ち方を習得できたか。 古典・書風とは何かを理解できたか。臨書学習における書の学び方を知り理解できたか。 「九成宮」「孔子廟」「雁塔」「建中」「牛欄」の書風とその特徴を理解し、再現できたかどうか。 【思考・判断・表現】 「九成宮」「孔子廟」「雁塔」「建中」「牛欄」の古典について、それぞれの用筆や結構の特徴を自分なりに工夫し、臨書活動を通じて表現できたかどうか。 当時においてなぜそのような古典が生まれたのか、古典が生まれた背景を理解しようと取り組んでいるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な楷書の書風を知ること、身の回りの文字に興味を持ち、書風の違いが与える印象の違いを理解しようとしているか。また授業中の板書など、必要事項をノートに記入しているかどうか。	○	○	○	24
	単元③《行書の学習》 【知識及び技能】 書の歴史の中で「書聖」といわれる王羲之の書に触れながら、当時の時代背景と共に、なぜ書聖と呼ばれるのか、行書が生まれるに至った経緯と共に理解していく。また半切サイズに8文字書くことにより、大きい紙に書くバランスと集中力を養う。	○王羲之「蘭亭序」 半切2分の1に書く ○空海「風信帖」 教材：筆墨硯紙 書道Ⅰ	【知識・技能】 行書という書体を完成させた王羲之の蘭亭序の書風の特徴を理解し、再現できているか。さらにそこから発展した空海の風信帖は八面出鋒で筆をねじり、つき、かえる等、様々な筆の機能を引き出そうと工夫し、多面的に筆を用いながら書けているか。 【思考・判断・表現】	○	○	○	8

2 学 期	【思考力、判断力、表現力等】 国語科書写で学んだ行書の基礎力を基に、点画の繋がりや省略、線の太細、柔らかさなど行書の特徴を理解し表現する。中国の王羲之とそれを学んだ空海の行書の書風の違いを観察しを通して理解し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 行書は普段使いにおいても常日頃より活用する書体であり、速書きに適している。生徒が時と場合に応じて主体的に書体を選択し学びを実生活に活かせるように指導する。また実用の面だけでなく、心の動きや情緒を表現しやすい行書の芸術表現を享受する。 単元④《刻字の学習》 【知識及び技能】 文字を表記する上で、書くことの他には刻る(削る)ことがあり、例えば殷周時期の甲骨文字のように、文字を書くことと刻すことは古代より相互に関りあっていた。刻字学習を通じて、書く以外の文字を記す方法を実際に彫刻刀でもって体験的に学習する。 【思考力、判断力、表現力等】 自分自身で選んだ好きな漢字をどのように工夫し、自分の意図に沿った表現を試みる。また、今まで学んだ楷書と行書の書体・書風を参考に生かして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 刻字はボードに刻しているの、道具などしなくてもそのまま家に飾ることができる。書を愛好する心情を育てる上で、自分の好きな文字を、自分好みに書き、刻することで、ものづくりとして、書を楽しみ、日常に取り入れていく。 単元⑤《細字の学習》 【知識・技能】 隋代の代表的な古典である美人董氏墓誌銘の臨書を通じて、小字楷書の基礎的な力を養う。 【思考力、判断力、表現力等】 唐代の楷書古典とは少し違、少し扁平の結構をした隋の古典の書風の特徴を考察し捉えて適切に表現する。前学期で学習した楷書の基礎を踏まえて基本となる点画を表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 細字は実生活で使う文字の大きさに近い、この授業を通して学びえた書写能力を日々の硬筆に生かしていく。	○刻字について ○刻字の歴史 ○刻字制作 教材：筆墨硯紙 書道Ⅰ アクリル絵具	【知識・技能】 刻字の歴史と表現を知り、文字を刻ることと書くことの関係性を理解しているか。今まで学んできた古典の様々な書風や書体を活かしているか。 【思考・判断・表現】 筆で書いた下書きに合わせ、実際に刻る過程の中でかすれや墨溜まり、粗細の変化など工夫して取り組んでいるか。また自分の制作意図にそって色や刻り方に工夫しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 臨書は呼吸に例えると息を吸う作業であり、創作は吐く作業である。学び得たものをどのように使い、自分のものとして発散していくか、楽しみながら積極的に取り組んでいるかどうか。	○	○	○	10	
			【知識・技能】 隋代の書の歴史を理解し、その代表的な古典である美人董氏墓誌銘の書風を把握できたか。 【思考・判断・表現】 隋代墓誌銘の特徴を捉え、いつもとは違う文字の大きさに適応し表現できたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 御祝いの封筒や芳名など、筆で細字を書く機会は日常に多く存在する。小楷の技法を積極的に学び取り、日々のノートなどの字に反映しているかどうか。また点画の部分練習など自ら工夫して練習しているかどうか。	○	○	○	6	
3 学 期	単元⑥《仮名の学習》 【知識及び技能】 日本固有の仮名文字の成り立ちを理解する。また、「いろは歌」や変体仮名の学習を通じて、仮名の書き方を習得する。蓬萊切や高野切の臨書学習を通して、平安の和歌文化を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 細線・曲線を基調とした仮名文字の書の特徴を理解し表現する。また和歌と仮名文字の関係性について考察し、書とかかれた言葉との関係性の理解に努める。連綿や変体仮名を用いた古筆の書をよく観察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 書は書のみならず、文学や美術とも深いかわりがあることから、国語科古典における和歌文学との教科横断的な授業を行い、芸術的側面のみならず当時の平安時代の文化の一翼であったことを紹介し、書と社会とのかわりの認知を促す。	○仮名の成り立ち ○いろは歌 ○変体仮名 ○蓬萊切 ○高野切第三種 教材：筆墨硯紙 書道Ⅰ 料紙	【知識・技能】 日本固有の仮名文字の成り立ちを理解しているか。また、「いろは歌」や変体仮名、古筆の学習を通じて、仮名の書き方を習得しているか。 【思考・判断・表現】 細線や曲線、連綿や変体仮名を用いた仮名文字の書の特徴を理解し表現しているか。また和歌と仮名文字の関係性について考察し、書とかかれた言葉との関係性の理解に努めているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 仮名の連綿などの部分練習を工夫して取り組み、細い線が主体の仮名文字を表現しようと工夫しているかどうか。	○	○	○	18	
				○	○	○	合計	72

野津田 高等学校令和6年度（2 学年用）教科 家庭 科目 家庭基礎

教 科： 家庭 科 目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 5 組

使用教科書：図説家庭基礎

教科 家庭 の目標： 実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。

【知識及び技能】生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解 しているとともに技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】生活の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を身に付 けている。

【学びに向かう力、人間性等】課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活を創造し実践しようとしている。

科目 家庭基礎 の目標： ・家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のありかた、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立のための衣食住や消費生活・環境などの基礎的な知識・技術を身に付ける。・生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身に付ける。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	第1章自分らしい生き方と家族 (知識・技能) ・ライフステージ、発達課題、ライフイベントを関連させて理解することができる ・4つの自立について理解できる (思考・判断・表現) ・自分のライフコースを考えることができる ・自分にとっての家族について考えられる (主体的に学習に取り組む態度) ・職業について近い将来のことという意識をもって積極的に学習に ・将来の自分が作る家族について考えようとする	第1章自分らしい生き方と家族 指導事項 ・人生 ・青年期・労働 ・生活時間・男女共同参画社会 ・家族・社会環境の変化や課題 ・家族に関わる法律	(知識・技能) ワーク・定期考査 (思考・判断・表現) ワーク・定期考査 (主体的に学習に取り組む態度) ワーク・レポート	○	○	○	8
	第2章 子どもとかかわる (知識・技能) ・子どもの発達について理解する ・保育やかかわりの重要性を理解する (思考・判断・表現) ・どのようなかかわり方がいいか考えようとする (主体的に学習に取り組む態度) ・自分の将来と結び付けながら考え、学習しようとする	第2章 子どもとかかわる 指導事項 ・誕生・発達 ・生活習慣と健康・食生活衣生活 ・遊び・親になること ・環境・法律・制度	(知識・技能) ワーク・定期考査 (思考・判断・表現) ワーク・定期考査 (主体的に学習に取り組む態度) ワーク・レポート	○	○	○	8
	第3章 高齢者とかかわる (知識・技能) ・現在の高齢社会について理解する ・介護の課題を理解する (思考・判断・表現) ・高齢期について自分と結びつけながら考えようとする (主体的に学習に取り組む態度) ・高齢者へのインタビューなどを行い、理解を深めようとする。	第3章 高齢者とかかわる 指導事項 ・高齢社会・高齢者 ・介護・制度	(知識・技能) ワーク・定期考査 (思考・判断・表現) ワーク・定期考査 (主体的に学習に取り組む態度) ワーク・レポート	○	○	○	4
	第4章 社会とかかわる (知識・技能) ・社会福祉の重要性を理解する ・福祉制度、社会保障制度について、生活課題と関連させながら理解できる (思考・判断・表現) ・支えあう活動への興味・関心を持って、調査・参加しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) ・地域の福祉について調査を行い、自分でできることについて考え、まとめることができる	第4章 社会とかかわる 指導事項 ・共生・社会保険制度 ・社会の一員としての役割	(知識・技能) ワーク・定期考査 (思考・判断・表現) ワーク・定期考査 (主体的に学習に取り組む態度) ワーク・レポート	○	○	○	2

[illegible]

年間授業計画

野津田 高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 福祉 科目 社会福祉基礎

教 科： 福祉 科 目： 社会福祉基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 4 組

使用教科書： 7 実教 福祉 7 0 1 社会福祉基礎

副教材： 最新：介護福祉養成講座 2 社会の理解 中央法規

教科 福祉 の目標： 福祉における実践的・体験的な学習活動を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人の育成を目指す

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

科目 社会福祉基礎 の目標： 現代社会における社会福祉の意義や役割を理解するとともに関連する技術を身に付け、社会福祉の向上と発展に担うために必要な資質・能力の育成する

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会福祉について体系的に・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価標準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第3編：生活を支える社会福祉・社 第1章：社会福祉・社会保障制度の 【知識及び技術】 社会保障制度の意義と役割について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 社会福祉と社会保障制度、また社会福祉を推進する機関を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 【学びに向かう力、人間性等】 社会保障と社会福祉について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・指導事項 第1章：社会福祉・社会保障制度 社会保障制度の意義と目的 社会福祉と社会保障制度 社会福祉を推進する機関 ・教材 教科書、テキスト、 社会福祉小六法、プリント PC端末	【知識及び技術】 社会保障制度の意義と役割について理解した内容を記入する。 【思考力、判断力、表現力等】 社会保障制度について考察した内容を記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 社会保障制度についてグループワークで話し合った内容をまとめ、発表する。	○	○	○	12
	定期考查			○	○		1
	第3編：生活を支える社会福祉・社 第2章：子ども家庭福祉 【知識及び技術】 子ども家庭福祉について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 子ども家庭福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 【学びに向かう力、人間性等】 子ども家庭福祉について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・指導事項 第2章：子ども家庭福祉 少子化時代の子ども子育て支援 子育て支援と保育 障害のある子どもの福祉 子どものすこやかな成長の支援 市町村と児童相談所の役割 社会的養護と児童虐待への対応 子どもの貧困とひとり親家庭の福祉 子どもの権利と子どもの家庭福祉 ・教材 教科書、テキスト、 社会福祉小六法、プリント PC端末	【知識及び技術】 子ども家庭福祉から理解した内容を記入する。 【思考力、判断力、表現力等】 子ども家庭福祉について考察した内容を記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 子ども家庭福祉についてグループワークで話し合った内容をまとめ、他の人に説明できる。	○	○	○	12
	定期考查			○	○		1
2 学 期	第3編：生活を支える社会福祉・社 第3章：障害者福祉 【知識及び技術】 障害者福祉について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 障害者福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 【学びに向かう力、人間性等】 障害者福祉について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・指導事項 第3章：障害者福祉 障害者福祉とは 身体障害者の現状と課題 身体障害者福祉の推進 障害者の生活支援 知的障害者の現状と課題 知的障害者の在宅支援と施設役割 障害者グループホーム 発達障害をめぐる多様な課題と支援 精神保健と精神障害 精神障害者の支援 障害者福祉の今後 ・教材 教科書、テキスト、 介護福祉用語辞典 社会福祉小六法、プリント PC端末	【知識及び技術】 障害者福祉から理解した内容を記入する。 【思考力、判断力、表現力等】 障害者福祉について考察した内容を記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 障害者福祉についてグループワークで話し合った内容をまとめ、伝えることができる。	○	○	○	14
	定期考查			○	○		1
	第3編：生活を支える社会福祉・社会 保障制度 第4章：高齢者福祉 【知識及び技術】 高齢者福祉について理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 高齢者福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 【学びに向かう力、人間性等】 高齢者福祉について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・指導事項 第4章：高齢者福祉 人口の高齢化と高齢者福祉 高齢者の健康保持と社会参加 介護保険制度（1）（2） 高齢者の在宅サービス（1）（2） 認知症ケア 介護保険施設 老人福祉施設その他 高齢者の地域生活を支える各種サービス 高齢者福祉の将来 ・教材 教科書、テキスト、 社会福祉小六法、プリント PC端末	【知識及び技術】 高齢者福祉における社会福祉から理解した内容を記入する。 【思考力、判断力、表現力等】 高齢者福祉における社会福祉について考察した内容を記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 高齢者福祉における社会福祉についてグループワークで話し合った内容をまとめ、クラス全体に伝えることができる。	○	○	○	16
	定期考查			○	○		1

3 学 期	第3編：生活を支える社会福祉・社会 保障制度 第5章：生活支援のための公的扶助 【知識及び技術】 生活支援のための公的扶助について 理解しているとともに、関連する 技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 生活支援のための公的扶助に関す る課題を発見し、職業人に求めら れる倫理観を踏まえ科学的な根拠 に基づいて創造的に解決してい る。 【学びに向かう力、人間性等】 生活支援のための公的扶助につい て自ら学び、主体的かつ協働的に 取り組もうとしている。 定期考査	・指導事項 第5章：生活支援のための公的扶 生活保護とは 生活保護の種類と基準 生活保護の実施運営体制と最近の動向 生活資金の支援制度・ホームレス の自立支援 ・教材 教科書、テキスト、 社会福祉小六法、プリント PC端末	【知識及び技術】 生活支援のための公的扶助から理解した内容 を記入する。 【思考力、判断力、表現力等】 生活支援のための公的扶助について考察した 内容を記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 生活支援のための公的扶助についてグルー プワークで話し合った内容をまとめ、発表す る。	○	○	○	11
				○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

野津田 高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 福祉 科目 介護福祉基礎

教 科： 福祉 科 目： 介護福祉基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 4 組

使用教科書： 7実教 福祉702 介護福祉基礎

副教材： 最新 介護福祉士養成講座4 第2版 介護の基本Ⅱ

教科 福祉 の目標： 福祉における実践的・体験的な学習活動を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人の育成を目指す

【知識及び技術】 福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

科目 介護福祉基礎 の目標： 介護の意義と役割を理解するとともに関連する技術を身に付け、地域における継続した生活の支援を担う職業人として必要な資質・能力を育成する

【知識及び技術】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基礎的な介護知識の習得のほか、現代の福祉課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解し、関連する技術を身に付ける。また、様々な資料から、介護福祉分野における課題を読み取り、現在の状況を知り介護実習の実践に繋げる。	介護に関する課題を発見し、職業人に求められている適切な倫理観を養い、科学的根拠に基づいた介護方法を身に付け、確かな創造力に基づいた介護実践する力を養う。	よりよい社会の実現（共生社会）に向けて、自己に求められている役割を理解すると共に、現代の諸課題を整理し主体的に解決しようとする態度を養う。福祉の見方・考え方を多面的に捉える力を養い協働的に取り組む力も身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第1章 介護福祉を必要とする人と生活環境 第5章 介護福祉サービスの概要 第3節 居宅介護サービス 第6節 施設サービス 【知識及び技術】 私たちにとっての「生活とは何か」を知る。 【思考力・判断力・表現力等】 自分の「生活のこだわり」を発表して、他者との「生活の違い」に気づけるようにする。 利用者に対してサービスの説明ができるように内容を理解する。 【学びに向かう力・人間性等】 事例から利用者に必要なサービスを考えようとする態度を養う。	【指導項目】 第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第1章 介護福祉を必要とする人と生活環境 第5章 介護福祉サービスの概要 第3節 居宅介護サービス 第6節 施設サービス ・生活とは何か ・生活の特性 ・その人らしさとは何か ・生活ニーズの理解 第5章 介護福祉サービスの概要 第3節 居宅介護サービス 第6節 施設サービス ・居宅サービス ・施設サービス 【教材】 教科書、ワーク、プリント	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第1章 介護福祉を必要とする人と生活環境 第5章 介護福祉サービスの概要 第3節 居宅介護サービス 第6節 施設サービス 【知識及び技術】 「生活とは何か」について記入している。 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の関係を記入している。 【思考力・判断力・表現力等】 「生活のこだわり」から「その人らしさ」を考察している。 事例をとおして、利用者に必要なサービスについて考察して説明することができる。 【学びに向かう力・人間性等】 「介護福祉士」として、利用者に対してサービス内容を自ら伝えることができる。	○	○	○	9
				○	○		1
	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第5章 介護福祉サービスの概要 第4節 地域密着型サービス 【知識及び技術】 地域密着型サービスや地域支援事業、障害福祉サービスについて理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 高齢者が住み慣れた地域で生活するためには、どうすれば良いのか考えられるように説明する。 利用者に対してサービスの説明ができるように内容を理解する。 【学びに向かう力・人間性等】 「介護福祉士」と「地域」との関係について考えようとする態度を養う。	【指導項目】 第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第5章 介護福祉サービスの概要 第4節 地域密着型サービス 第4節 地域密着型サービス ・地域密着型サービス ・地域支援事業 ・障害福祉サービス 【教材】 教科書、ワーク、プリント	第3編 介護を必要とする人の理解と支援 第5章 介護福祉サービスの概要 第4節 地域密着型サービス 【知識及び技術】 地域密着型サービスや地域支援事業、障害福祉サービスについて記入している。 【思考力・判断力・表現力等】 高齢者が住み慣れた地域で生活するためには、どうすれば良いのか考察して説明することができる。 【学びに向かう力・人間性等】 「介護福祉士」として、利用者に対してサービス内容を自ら伝えることができる。	○	○	○	12
	定期考查			○	○		1
2 学 期	第2編 介護福祉の担い手 第4章 介護実践における連携 第4節 ボランティアとの連携 【知識及び技術】 地域連携を学ぶ前段階として、地域共生社会や地域包括ケアシステムについて理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 「利用者と地域」の関係性について理解できるように説明する。 【学びに向かう力・人間性等】 「施設と地域」、「在宅と地域」の関わりについて学ぼうとする態度を養う。	【指導項目】 第2編 介護福祉の担い手 第4章 介護実践における連携 第4節 ボランティアとの連携 ・地域共生社会 ・地域包括ケアシステム 第4節 地域連携 【教材】 教科書、ワーク、プリント	第2編 介護福祉の担い手 第4章 介護実践における連携 第4節 ボランティアとの連携 【知識及び技術】 地域共生社会や地域包括ケアシステムについて記入している。 【思考力・判断力・表現力等】 なぜ地域共生社会や地域包括ケアシステムがあるのか考察して説明することができる。 【学びに向かう力・人間性等】 「介護福祉士」がどのように地域と関わっているのか自ら伝えることができる。	○	○	○	14
	定期考查			○	○		1
	第2編 介護福祉の担い手 第4章 介護実践における連携	【指導項目】 第2編 介護福祉の担い手	第2編 介護福祉の担い手 第4章 介護実践における連携				

	第4節 ボランティアとの連携 【知識及び技術】 地域連携にかかわる機関について理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 地域連携に関わる機関について実習先や就職先をイメージしながら理解できるように説明する。 【学びに向かう力・人間性等】 「介護福祉士」がどのように地域連携に携わるのか学ぼうとする態度を養う。	第4章 介護実践における連携 第4節 ボランティアとの連携 ・地域包括支援センター ・福祉事務所 ・社会福祉協議会 ・NPO(民間非営利組織) ・社会福祉法人 【教材】 教科書、ワーク、プリント	第4節 ボランティアとの連携 【知識及び技術】 地域連携にかかわる機関について記入している。 【思考力・判断力・表現力等】 地域連携にかかわる機関がどのように利用者に関わっているのか考察して説明することができる。 【学びに向かう力・人間性等】 「介護福祉士」がどのように地域連携に携わるのか自ら伝えることができる。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第4編 介護における安全確保と危機管理 第1章 介護における安全と事故防止 【知識及び技術】 利用者にとっての「安全」を確保するために必要な対応を理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 事例をとおして、リスクマネジメントやヒヤリハットについて理解できるように説明する。 【学びに向かう力・人間性等】 利用者の安全を守るために「介護福祉士」として学ぼうとする態度を養う。	【指導項目】 第4編 介護における安全確保と危機管理 第1章 介護における安全と事故防止 ・過誤、事故、苦情 ・ヒヤリハット 【教材】 教科書、ワーク、プリント	第4編 介護における安全確保と危機管理 第1章 介護における安全と事故防止 【知識及び技術】 利用者にとっての「安全」を確保するために必要な対応を記入している。 【思考力・判断力・表現力等】 事例をとおして、どのように対応すれば「安全」が確保されるのかを考察して説明することができる。 【学びに向かう力・人間性等】 利用者と「介護福祉士」を守るためにリスクマネジメントがあることを自ら伝えることができる。	○	○	○	15

	定期考査			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

野津田 高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 福祉 科目 こころとからだの理解

教 科： 福祉 科 目： こころとからだの理解 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 4 組

使用教科書： 7 実教 福祉304 こころとからだの理解 副教材： 最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだの理解

教科 福祉 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じて、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な社会福祉の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養う

科目 こころとからだの理解 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、介護を実践するための人間の理解に必要な資質・能力を育成する

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける	自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識及び技術】 排泄における人の心身機能について、理解を通して記述する	・指導項目 排泄に関連したこころとからだのしくみ ・教材 教科書、テキスト、ワークシート、P C 機器	【知識及び技術】 排泄における人の心身機能について理解した内容をワークシートに記入しているか 【思考力、判断力、表現力等】 排泄における人の心身機能について安全安楽の援助について考察した内容を記入しているか 【学びに向かう力、人間性等】 排泄における人の心身機能について理解し、利用者の安全安心につながる援助方法について、グループワークで話し合った内容をまとめているか				
	【思考力、判断力、表現力等】 排泄における人の心身機能について考察し、内容を記入する			○	○	○	10
	【学びに向かう力、人間性等】 排泄における人の心身機能について理解し、についてグループで話し合った内容をまとめて発表する						
	定期査			○	○		1
2 学 期	【知識及び技術】 排泄において、オムツ交換の援助方法について、理解を通して記述する	・指導項目 排泄に関連した援助 ・教材 教科書、テキスト、ワークシート、P C 機器	【知識及び技術】 オムツ交換の援助方法について、理解した内容をワークシートに記入しているか 【思考力、判断力、表現力等】 オムツ交換の援助方法について、適切で安全安楽とはどのようなものか考察した内容を記入しているか 【学びに向かう力、人間性等】 オムツ交換の援助方法について、適切で安全安楽についてグループで話し合った内容をまとめているか				
	【思考力、判断力、表現力等】 排泄において、オムツ交換の援助方法について考察し、内容を記入する。			○	○	○	12
	【学びに向かう力、人間性等】 排泄において、適切なオムツ交換の援助方法を実践をおこなう						
	定期査			○	○		1
2 学 期	【知識及び技術】 入浴・清潔保持における人の心身機能について、理解を通して記述する	・指導項目 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ ・教材 教科書、テキスト、ワークシート、P C 機器	【知識及び技術】 入浴・清潔保持における人の心身機能について理解した内容をワークシートに記入しているか 【思考力、判断力、表現力等】 入浴・清潔保持における人の心身機能について安全安楽の援助について考察した内容を記入しているか 【学びに向かう力、人間性等】 入浴・清潔保持における人の心身機能について理解し、利用者の安全安心につながる援助方法について、グループワークで話し合った内容をまとめているか				
	【思考力、判断力、表現力等】 入浴・清潔保持における人の心身機能について考察し、内容を記入する			○	○	○	17
	【学びに向かう力、人間性等】 入浴・清潔保持における人の心身機能について理解し、についてグループで話し合った内容をまとめて発表する						
	定期査			○	○		1
2 学 期	【知識及び技術】 入浴・清潔保持の援助方法について、理解を通して記述する	・指導項目 入浴・清潔保持に関連した援助 ・教材 教科書、テキスト、ワークシート、P C 機器	【知識及び技術】 入浴・清潔保持の援助方法について、理解した内容をワークシートに記入しているか 【思考力、判断力、表現力等】 入浴・清潔保持の援助方法について、適切で安全安楽とはどのようなものか考察した内容を記入しているか 【学びに向かう力、人間性等】 入浴・清潔保持の援助方法について、適切で安全安楽についてグループで話し合った内容をまとめているか				
	【思考力、判断力、表現力等】 入浴・清潔保持の援助方法について考察し、内容を記入する。			○	○	○	16
	【学びに向かう力、人間性等】 入浴・清潔保持において、適切な洗身洗髪の援助方法を実践をおこなう						
	定期査			○	○		1

3 学 期	【知識及び技術】 食事介護に必要な知識と援助方法について、理解を通して記述する 【思考力、判断力、表現力等】 食事介護に必要な知識をもとに援助方法について考察し、内容を記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 食事介護に必要な知識を身につけ、適切な食事の援助方法を実践をおこなう	・指導項目 食事に関連したところとからだのしくみと援助 ・教材 教科書、テキスト、ワークシート、P C 機器	【知識及び技術】 食事介護の援助方法について、理解した内容をワークシートに記入しているか 【思考力、判断力、表現力等】 食事介護の援助方法について、適切で安全安楽とはどのようなものか考察した内容を記入しているか 【学びに向かう力、人間性等】 食事介護の援助方法について、適切で安全安楽についてグループで話し合った内容をまとめているか	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
							合計 70

野津田 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科			福祉科	科目	生活支援技術
教 科： 福祉		科 目： 生活支援技術		単位数： 3	単位
対象学年組：第 2 学年 4 組					
使用教科書： 7 実教 福祉 3 0 3		生活支援技術		副教材：最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア	
教科 福祉		の目標： 福祉における実践的・体験的な学習活動を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人の育成を目指す			
【知 識 及 び 技 術】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする					
【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う					
【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う					
科目 生活支援技術		の目標： サービス利用者主体の生活支援の在り方を理解するとともに関連する技術を身に付け、尊厳の保持や自立支援に根ざした継続的で豊かな生活支援に必要な資質・能力を育成する			

【知識及び技術】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	【知識及び技術】 人間と社会や保健医療制度とチーム医療について教科書の記述から理解した内容を記入する。 【思考力、判断力、表現力等】 人間と社会や保健医療制度とチーム医療について考察し、内容を記入す 【学びに向かう力、人間性等】 人間と社会や保健医療制度とチーム医療についてグループで話し合った内容をまとめて発表する。	・指導項目 人間と社会 保健医療制度とチーム医療 ・教材 教科書、テキスト、ワークシート、P C 機器	【知識及び技術】 人間と社会や保健医療制度とチーム医療から理解した内容をワークシートに記入する。 【思考力、判断力、表現力等】 人間と社会や保健医療制度とチーム医療について考察した内容を記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 人間と社会や保健医療制度とチーム医療についてグループワークで話し合った内容をまとめ、発表する。	○	○	○	20
	定期考查			○	○		1
	【知識及び技術】 安全な療養生活と清潔保持と感染予防について教科書の記述から理解した内容を記入する。 【思考力、判断力、表現力等】 安全な療養生活と清潔保持と感染予防について考察し、内容を記入す 【学びに向かう力、人間性等】 安全な療養生活と清潔保持と感染予防についてグループで話し合った内容をまとめて、発表する。	・指導項目 安全な療養生活 清潔保持と感染予防 ・教材 教科書、テキスト、ワークシート、P C 機器	【知識及び技術】 安全な療養生活と清潔保持と感染予防から理解した内容をワークシートに記入する。 【思考力、判断力、表現力等】 安全な療養生活と清潔保持と感染予防について考察した内容を記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 安全な療養生活と清潔保持と感染予防についてグループワークで話し合った内容をまとめ、発表する。	○	○	○	20
	定期考查			○	○		1
2 学 期	【知識及び技術】 健康状態の把握と高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引概論について教科書の記述から理解した内容を記入す 【思考力、判断力、表現力等】 健康状態の把握と高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引概論について考察し、内容を記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 健康状態の把握と高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引概論についてグループで話し合った内容をまとめて発表する。	・指導項目 健康状態の把握 高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引概 論 ・教材 教科書、テキスト、ワークシート、P C 機器	【知識及び技術】 健康状態の把握と高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引概論から理解した内容を記入する。 【思考力、判断力、表現力等】 健康状態の把握と高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引概論について適切な判断をし、ワークシートに記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 健康状態の把握と高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引概論についてグループワークで話し合った内容をまとめて発表する。	○	○	○	20
	定期考查			○	○		1
	【知識及び技術】 高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引実 施手順解説と救急蘇生法について教科書の記述から理解した内容を記入する。 【思考力、判断力、表現力等】 高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引実 施手順解説と救急蘇生法について考察し、内容を記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引実 施手順解説と救急蘇生法についてグループで話し合った内容をまとめて発表する。	・指導項目 高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引実 施 救急蘇生法 ・教材 教科書、テキスト、ワークシート、P C 機器	【知識及び技術】 高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引実施手順解説と救急蘇生法から理解した内容を記入す 【思考力、判断力、表現力等】 高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引実施手順解説と救急蘇生法について適切な判断をし、ワークシートに記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 高齢者及び障 碍児・者の喀痰吸引実施手順解説と救急蘇生法についてグループワークで話し合った内容をまとめて、発表を通して共有する。	○	○	○	20
	定期考查			○	○		1
3 学 期	【知識及び技術】 高齢者及び障 害児・者の経管栄養概 論と高齢者及び障 害児・者の経管栄養 養実施手順解説について教科書の記述から理解した内容を記入する。 【思考力、判断力、表現力等】 高齢者及び障 害児・者の経管栄養概 論と高齢者及び障 害児・者の経管栄養 養実施手順解説について考察し、内容を記入する。 【学びに向かう力、人間性等】 高齢者及び障 害児・者の経管栄養概 論と高齢者及び障 害児・者の経管栄養 養実施手順解説についてグループで話し合った内容をまとめて発表す	・指導項目 高齢者及び障 害児・者の経管栄養概 論 高齢者及び障 害児・者の経管栄養 養 ・教材 教科書、テキスト、ワークシート、P C 機器	【知識及び技術】 高齢者及び障 害児・者の経管栄養概論と高齢者及び障 害児・者の経管栄養養実施手順解説から理解した内容をワークシートに適切に記入 【思考力、判断力、表現力等】 高齢者及び障 害児・者の経管栄養概論と高齢者及び障 害児・者の経管栄養養実施手順解説についてサービス利用者の状況を踏まえながら考察し、内容を記入し表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 高齢者及び障 害児・者の経管栄養概論と高齢者及び障 害児・者の経管栄養養実施手順解説について実践の中で得た考えに対し、グループで話し合い、他者の意見を取り入れながらま	○	○	○	20
	定期考查			○	○		1
							合計
							105

年間授業計画

野津田 高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 福祉 科目 介護過程

教 科： 福祉 科 目： 介護過程 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 4 組

使用教科書： 副教材：最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程

教科 福祉 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な社会福祉の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養う

科目 介護過程 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、介護過程の展開に必要な資質・能力を育成する

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護過程について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける	介護過程の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護過程の適切な展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価標準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・介護過程の意義と役割 【知識及び技術】 サービス利用者の援助における科学的根拠に基づいた介護を専門職として実践するための知識を身に付ける 【思考、判断、表現等】 サービス利用者のニーズを引き出し、個別援助につながる課題や思考する必要性などについて、創造的に取り組む態度を養う 【学びに向かう力、人間性等】 サービス利用者の個性と自立した生活を支援するために主体的かつ協働的に取り組む	・指導項目 介護過程の意義と役割 ・教材 プリント、PC端末	【知識及び技術】 介護過程の展開における科学的な根拠とは何かを例を示しながらその意味を理解することができるか 【思考、判断、表現等】 サービス利用者の課題に対し、必要な援助は何かを考察し援助方法考え出すことができるか 【学びに向かう力、人間性】 サービス利用者の課題に対し、必要な援助は何かをグループワークを通して他者と共に導き出すことができるか	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	・介護過程の展開 【知識及び技術】 サービス利用者のアセスメントを活用し、介護計画に必要な情報の集約に対する知識を身につける 【思考、判断、表現等】 サービス利用者のアセスメントを見返し、必要な情報の取捨選択における判断ができる 【学びに向かう力、人間性等】 サービス利用者のアセスメントを見返し、必要な情報の取捨選択について協働的に取り組む態度を養う	・指導項目 介護過程の展開 ・教材 プリント、PC端末	【知識及び技術】 アセスメントで得たものを見返し、サービス利用者の心身の状況や思いなどが正しく記入できるか 【思考、判断、表現等】 アセスメントで得られた情報について、サービス利用者の思いやできることなどが正しく記入されているか判断ができるか 【学びに向かう力、人間性等】 他者とともにアセスメントを見返し、必要な情報の取捨選択がされているか、他者と話し合いをすることができるか	○	○	○	32
2 学 期	定期考査			○	○		1
	・介護過程の実践的展開 【知識及び技術】 事例研究を通してサービス利用者の心理や生活状態などについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける	・指導項目 介護過程の実践的展開 ・教材 プリント、PC端末	【知識及び技術】 情報の解釈、関連づけ、統合化に関する知識をもとに、アセスメントで得た情報から介護計画作成の実践ができるか				

3 学 期	【思考、判断、表現等】 サービス利用者の心身状況をもとに、科学的根拠に基づいた介護援助計画に必要な援助方法を考えることができる		【思考、判断、表現等】 サービス利用者の情報をもとに科学的根拠に基づいた個性を主とした介護援助計画を作成することができるか	○	○	○	15
	【学びに向かう力、人間性等】 サービス利用者の心身状況をもとに、科学的根拠に基づいた介護援助計画に必要な援助方法を主体的かつ協働的に取り組む		【学びに向かう力、人間性等】 サービス利用者の情報をもとに科学的根拠に基づいた個性を主とした介護援助計画を作成するために話し合いから意見を得て、反映することができるか				
	定期考査			○	○		1
							合計 70

年間授業計画

野津田 高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 福祉 科目 介護総合演習

教 科： 福祉 科 目： 介護総合演習 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年 4 組

使用教科書： 副教材： 最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習

教科 福祉 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な社会福祉の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養う

科目 介護総合演習 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域福祉の推進と持続可能な社会福祉の創造と必要な資質・能力を育成する

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける	地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探索し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・ 介護演習 【知識及び技術】 介護実習が適切かつ総合的に展開できるように、介護実習の意義や目的などについて理解するとともに、関連する技術を身につける 【思考、判断、表現等】 介護実習を通して個人情報保護やリスクマネジメントなどについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する 【学びに向かう力、人間性等】 地域での継続した生活を支援する介護実習について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む	・ 指導事項 介護演習 ・ 教材 プリント、PC端末	【知識及び技術】 特別養護老人ホームの概要のみならず、意義や目的、実習生としての心構えなどの説明された内容を理解し、適切に記入する 【思考、判断、表現等】 これまで他科目で学んだ知識と技術を統合し、具体的な事例について考察し、より良い生活支援について記入する 【学びに向かう力、人間性等】 具体的な事例をから得た課題について、解決方法などをグループの中で話し合い、より良い方法を見つけ出し、発表する	○	○	○	10
	定期考查			○	○		1
	・ 事例研究 【知識及び技術】 事例研究を通してサービス利用者の心理や生活状態などについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける 【思考、判断、表現等】 介護実習や福祉活動などから得た体験についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する 【学びに向かう力、人間性等】 介護実習がや福祉活動などから得た体験について自ら学び、事例研究に主体的かつ協働的に取り組む	・ 指導項目 事例研究 ・ 教材 プリント、PC端末	【知識及び技術】 介護実習を通して、利用者の心理や生活状態などについて、理解するとともに記入する 【思考、判断、表現等】 介護実習から福祉専門職として必要な援助方法や価値観について考え、プリントに記入する 【学びに向かう力、人間性等】 介護実習の経験から得た課題について、解決方法などをグループの中で話し合い、より良い方法を見つけ出し、発表する	○	○	○	11
2 学 期	定期考查			○	○		1
	・ 調査、研究、実験 【知識及び技術】 調査、研究、実験を通して、福祉の各分野について理解するとともに、関連する技術を身に付ける	・ 指導項目 調査、研究、実験 ・ 教材 プリント、PC端末	【知識及び技術】 社会福祉基礎の内容と介護実習での経験から、関連する部分を理解し、記入する 【思考、判断、表現等】 介護実習や社会人講師の講演を通して、地域				

3 学 期	【思考、判断、表現等】 福祉の各分野について、調査、研究、実験などを通して課題を発見するとともに、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する		福祉について、福祉施設の役割等を考察し、その内容を記入する	○	○	○	11
	【学びに向かう力、人間性等】 福祉の各分野について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む		【学びに向かう力、人間性等】 これまでの学習や経験を通して、これからの福祉に必要なことなどを、グループで話し合い、まとめた内容を発表する				
	定期考査			○	○		1
							合計

							35
--	--	--	--	--	--	--	----

年間授業計画

野津田 高等学校 令和6年度（2 学年用） 教科 福祉 科目 介護実習

教 科： 福祉 科 目： 介護実習 単位数： 4 単位

対象学年組：第 2 学年 4 組

使用教科書： 副教材：最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習

教科 福祉 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な社会福祉の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養う

科目 介護実習 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、根拠に基づいた介護及び支援を実践するために必要な資質・能力を育成する

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける	介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期							
2 学 期	・多様な介護の場における実習 【知識及び技術】 サービス利用者の心身の状況や生活を送る上で、おこなっていること・できることや生活上の思いなどについて理解する 【思考、判断、表現等】 サービス利用者に対し、コミュニケーションを通して個々の思いや考えを引き出し、それに合わせた関わりを通して、必要な援助について思考する 【学びに向かう力、人間性等】 サービス利用者に対し、多様なコミュニケーション方法を主体的かつ協働的に取り組む	・指導事項 多様な介護の場における実習 ・教材 実習日誌	【知識及び技術】 サービス利用者の心身の状況や生活を送る上で、おこなっていること・できることや生活上の思いなどをアセスメントシートに記入する 【思考、判断、表現等】 サービス利用者のアセスメントシート作成のため、コミュニケーションを通してその方の思いなどについて考察し、個別性を意識しながら適切に記入する 【学びに向かう力、人間性等】 サービス利用者のアセスメントシート作成のために、個人の考えなどを引き出すため、コミュニケーションを主体として関わりを行う。また、反省会で実習指導者と自身の情報をコミュニケーションを通して伝え合う	○	○	○	140
3 学 期							
							合計 140